Rédacteur principal, et gérant. H. Sano

Sténographe. T. Yama

Imprimeur et Editeur. S. Itohda

(LE BULLETIN PARAÎT TOUS LES MOIS.)

大泉監獄協會雜誌

號參拾貳百第

本月一號發行

第八月刊

明治廿一年五月刊列

明治三十一年七月廿五日發行

廣告

濃飛育兒院擴張の趣意

吾濃飛育兒院は設立以來六十餘名の孤兒を養ひ來れり方今本院者四十二名院役者七十名合せて五十有餘人の一家族を成し總て家族主義の教育法を取れり其の東京横濱、神戸、京都、明石等に在り學校、商家あり向在院兒中十名は岐阜名産たる團扇製造に従事し五名は他日印刷事業を起さんか爲し其額已に三十元來本院を維持するに少く共毎月百五十圓を要す有餘に達せり又團扇製造の業も元來一定の資本の不幸に遭遇せしむれば此資本からんば團扇製造の事業を行ふに若し此資本からんば團扇製造の事業を得たりとて支障なきからんば團扇製造の事業並に岐阜名産の委託販賣を謀り多少の院兒養育費を得んと欲す且つ救済報をも東京に徒し新に豊崎善之助氏を聘し主筆となし松村介石留岡幸助二氏に之を輔佐し請ひて紙面を一新し將來に希望する所所あらんば必ず然かしく而して吾人の將來に希望する所

(一) 一定の基本財産を募集し其利子を以て維持せんこと

(二) 團扇部、活版部、各十名の院兒を救養するの方途を立てんこと

(三) 救済新報を獨立せしめ社會を警醒し社會事業の進歩を經緯するに至らんこと是なり

吾人不肖固より其人にあらずと雖も一片仁侠の志に驅られ自ら揣り斯事業を計畫せり今や誠任重く道遠きを感ず播磨碎骨之に馳れんは固より期する所なり大方の仁人君子幸に微衷を憐察せよ

明治卅一年六月

濃飛育兒院主 五十嵐喜廣
東京市神田區若宮町十番地
濃飛育兒院本部
同神田區表神保町一番地
治業館内商業部
同赤坂田町一丁目十四番地
松葉館救済新報編輯所

發行兼編輯者 佐野 尚
印刷者 池田宗平
印刷所 東京並木活版所

發行所 東京市淺草區墨船町廿八番地
大日本監獄協會事務所
東京並木活版所

大日本監獄協會雜誌第百貳拾參號目次

- 明治三十一年三月三十一日現在囚人犯數表
- 戒刑出獄者犯罪表
- 宮城縣監獄新入囚人の教育及犯罪原因調査表
- 論說
 - 獄罰談 小川滋次郎 一〇一
 - 獄罰談 洋々 散士 一〇二
 - 獄罰談 洋々 散士 一〇二
 - 獄罰談 洋々 散士 一〇二
- 雜錄
 - 板垣内相の監獄談 ○監房内の正坐 ○衛生事務の不届 ○病者を一防ぐの方法 ○監獄致國庫支辨の議 ○典獄の召集 ○監獄内の異議 ○獄政の振はざる原因 ○養信、検閱 ○監獄則の改正は果して如何 ○逃走の増加 ○監獄局の消息 ○警視廳典獄の異動 ○各地典獄の大異送 ○職員奉給範圍の擴張 ○刑任官の奉給 ○外務新聞 ○談話記事 ○各府縣監獄公報 ○人身測法に就て ○監獄則の部の改正 ○繁文省略 ○監獄官講習所 ○看守教育 ○在監人の敬禮 ○看守の進退 ○上官と看守 ○看守の任免 ○罷免後之看守押丁
- 英語欄
- 譯
- 來千九百年白耳義國アリニツセルに開設の列國監獄會議議概說明
- 質疑應答
 - 實疑 七件 ○應答 十二件 三三七
- 寄書
 - 因徒教導の主眼に就て ○不定期刑に就て ○東京集治監を見る ○刑任官再任に就て ○假出獄制度と看守の名譽 ○刑事人類學に就て ○懲罰起者にして救治の途なき乎 ○監獄衛生主事を置くの必要 ○監獄刷新の一途 ○刑任官特別任用令に付て ○改正看守制に對し企業一東 ○我國監獄書籍設置の必要を論ず ○ほま生に一言す
- 官報
- 寄附書目
- 雜誌追加(參照の召集期)
- 附錄
- 日英對照監獄則

大日本監獄協會雜誌第百貳拾貳號目次

- 論說
 - 獄罰談 小川滋次郎 一〇一
 - 獄罰談 洋々 散士 一〇二
 - 獄罰談 洋々 散士 一〇二
 - 獄罰談 洋々 散士 一〇二
- 雜錄
 - 板垣内相の就任 ○警察監獄學校の廢案 ○典獄會議 ○身分檢潮の活用 ○典獄の執務方法 ○在監人の史料 ○監獄官吏の美行 ○司獄官の服裝 ○監獄衛生の注意 ○押送規則に所稱押送費用の解釋 ○監獄局長の更迭 ○第四山獄事茶話官 原氏の講話、小河氏の講話 ○正談
- 英語欄
- 譯
- 來千九百年白耳義國アリニツセルに開設の列國監獄會議議概說明
- 質疑應答
 - 實疑 二件 ○應答 五件 四四〇
- 寄書
 - 犯罪と酒の關係 ○利事業治産の廢止に就て ○實務經驗家監獄局に集る ○一覽女史に一言注告す ○一覽女史の讀者人に對する敬語に付て
- 各地通信
- 下の關商業俱樂部に於ける小河監獄事務官の保護院に關する演說 ○監獄衛生談話 ○兵隊監獄令第三十九號監獄作業規程
- 官報
- 寄附書目
- 雜誌
- 日英對照監獄則

減刑出獄者犯罪表

自明治三十年二月一日
至全年十二月三十一日

原罪關係	犯罪數		出獄後		姓名
	男	女	後	罪	
竊盜	18	12	15	10	計
詐欺取財	15	10	12	8	計
強盜	12	8	10	6	計
監視違犯	10	7	8	5	計
賭博	8	5	6	4	計
謀殺	7	4	5	3	計
毆打死傷	6	3	4	2	計
過失殺	5	2	3	1	計
放火	4	1	2	1	計
貨幣偽造	3	1	2	1	計
文書偽造及毀	2	1	1	1	計
官印偽造	1	1	1	1	計
監守盜	1	1	1	1	計
贓物三關罪	1	1	1	1	計
姦淫	1	1	1	1	計
略取誘拐	1	1	1	1	計
邸宅侵入	1	1	1	1	計
官吏職務妨害	1	1	1	1	計
氏名詐稱	1	1	1	1	計
器物毀棄	1	1	1	1	計
脅迫	1	1	1	1	計
囚徒逃走	1	1	1	1	計
汽車妨害	1	1	1	1	計
遺失物隱匿	1	1	1	1	計
徵兵令違犯	1	1	1	1	計
合計	100	60	80	50	計

備考 減刑當日ノ放免者九千九百八十三人ナルヲ以テ其犯罪者ノ數五割〇六餘ニ當ル

大日本監獄協會雜誌第百二十三號

明治三十一年八月

論 說

● 獄 制 談 (續き)

小川 滋次 郎君口述
築 轍速記

分房の
期限

塊地利では分房の期限を三年以下といふことにして居ります、即ち獨逸の期限と同じとであります
が、其獨逸と異なる點は、塊地利に於ては分房三年以上に亘るときは假令囚人が強ひて引續き分房に於
て執行せられんことを望みましても、是非之を雜居に移さなければならぬのであるが、獨逸の方は當
人の考へ次第、三年以上尙ほ續いて分房に置くことが出来る、此點が違ふのであります、故に否應な
しに三年經ては必ず之を雜居に移すといふ、塊地利の方法は甚だ道理も無い不都合なものであると思は
れますが、斯かる窮屈な方法を立つて置くといふのは蓋しまだ分房の數が十分で無い故に、成るべく
多數の者を分房で執行せしめたいといふ考から起つたのであらうと考へます、

前に申した通り女の囚人監——是れまでも囚人監といふことを申しましたが、是れは總て懲役監のこと
であります——女監の方には分房といふものは殆ど絶無であります、今日に於ては是れは甚だ缺點で

女囚の
分房拘
禁

ありまするが、蓋し十數年前までは女囚といふものを分房に拘禁することは不都合である、益がなくして却つて害があるといふやうな説が専ら行はれた爲めに、唯り塊地利ばかりでは無い、他の國に於ても女監に於ては成るべく分房を造らないやうにするといふ方針を一時執つたことがあるのであります、けれども今日に於ては分房は男監に於て有益なるが如くに、女監に於ても亦同じく其必要を見るといふことに議論が一定するやうになつて參りました、先年の巴里の萬國會議に於ても女囚を分房に拘禁するの利害如何といふ問題が第二部の議事に上りましたが、其際巴里の「ダバデー」嬢それから英吉利の監獄協會員なる「エリザール」嬢、又は「チューリッヒ」の典獄である「ドクトル、クルチー」等の人が意見を述べ、其他會員多數の意見も總て女囚の分房拘禁を是認するといふことであります、

幼年囚
の待遇

それから幼年囚の待遇の事でありますが、此事に付いては塊地利で大に參考する所の有益な材料を得ましたのであります、私は「ブラーグ」及び「マルブルヒ」の二監獄に於て殊に研究調査を致して見ましたが、此二つの監獄には幼年部といふ別區劃の監房が設けられてもまして、幼年囚の事に付いては非常に當局者が慎重な注意を以て待遇を爲し且つ研究を盡して居るのであります、丁度此「ブラーグ」の幼年部を視察いたした時でありましたが、恰も幼年囚に學業を授けて居る所へ參りまして、其實況を見て居りました時に、其時が地理學の教授であつた、教師が萬國地圖を（是れは暗射地圖であつた）指して生徒に答へさして居りましたが、恰も私の參りました時に、多分教師が私への御馳走の積りでありますたらうが、我日本帝國の所を指して生徒に此處は何といふ國であるといふことを問ひました所が、生徒の一人、忘れもしませぬが丁度十二位の少年でありました、それが起立を致して日本帝國であると答

幼年囚
の待遇

へました、教師が尙ほ問ひを起して此國の都は何といふかと言ひました所、生徒は問ひに應じて江戸と稱すると申しました、教師は其答に満足しまして、尙ほ此國は幾つの幅から成立つて居る、之に對する生徒の答が亦正鵠を得ました、そこで教師は重ねて問ふには此中の臺灣といふ幅はどうして日本の版圖に入つたか、それから答が日清戰爭のことに及び、其戰爭のことから國民の氣質、文明の進歩などに及んで、盛に我邦のこれを此小生徒の口に依つて賞賛を受けまして、私は誠に言ひ言はれない喜ばしい感情を持ちました、同時に如何にして斯くまで能く教育を施されて居ることか、深く感嘆致しました、或は私の此處に來るといふことが前以て分つて居つたが爲めに、特に教師から教へられて居つたのではあるまいかと、幾分の疑心を生じましたが故に、私は其場で教師の許しを受けまして、自分が教師の鞭を借りまして、地圖の支那の所を指しまして其都の名は何であるとか、或は人口面積……此面積なきのことは御當人の私さへも甚だ覺束ないのであります、が兎も角も色々なことに付いて、丁度教師が我日本帝國のことに付いて聞いたと同じやうな事柄を以て、或る他の生徒を指名して問ふて見ました所が悉く満足を得ましたので、前の疑念も晴れ、益々感嘆を深く致したのであります、唯り地理學のみではなく其他總ての教育の點に付いて、殊に圖画などの教育が驚くべく進んで居るといふことを認めましたが、是を以ても當局者が幼年者の待遇といふことに非常に厚く注意して居るといふことが分るのであります、

此事は私が「ブラーグ」の大學教授である「ドクトルツッケル」(有名な刑法學者)といふ人に會つて話をした時分にも、此人も監獄に於ける教育の能く行届いて居るのには實に感心の至りであるといふことを申

して居りました、唯り教育の點ばかりでなく能く仕事に勉勵し、又其行狀なども極めて善良で、従つて此處から眞に改良せられて罪惡から遠ざかる者も澤山あるといふことであります、監獄には其親とか或は親類達から典獄に贈つた所の感謝狀が澤山具へてありまして、皆出獄後成績の善良であるといふことを感謝して居ります、

又「マールブルヒ」の監獄、此「マールブルヒ」といふ所の大學には曾て我帝國大學の御雇教師として多年教授を致して居つた「ラートゲン」といふ人が、今其地の教授を致して居ります、此監獄の幼年部の成績などは最も見るに足るものがあるのであります、尤も此處の監獄は餘り大きくはありませぬが、幼年部の設けがありまして、うこで千八百九十一年以來放免になつた所の五十七人の幼年者の成績に就いて調べたものがあります、其中の八人といふものは最も擢んでて善良な行狀を保ち、又十八人といふものは擢んでたる行狀を保ち、又十九人は満足すべき善良の行狀を保ち、八人は善良、一人は可なり善良な行狀を保ち、其他一人は精神病者と爲り、殘る二人だけが再犯に陥つたといふことであります、即ち再犯の割合といふものは、僅に百分の三コンマの五に過ぎないのである、普通幼年出獄者の再犯する者は百分の八十以上であるといふ一般の實況であります、之に比して見ますと實に驚くべき好成绩と謂はなければならぬのである、

又陸軍の方の側から此「マールブルヒ」の幼年部で刑を受けて放免した者が軍隊に編入せられて以來の成績を報告したものがあります、其報告に據りますと、千八百九十五年五月に至るまでの間に三十五人の幼年出獄者を兵隊に取つて見た所が、其中二十一人といふものは軍隊に於ける總ての行狀が擢んでて善良であり、八人が満足すべき善良であり二人が善良であり、一人が可なり善良であり、一人が精神病となつて顛狂院に送られ、唯殘る二人の者が不善良であつたといふことであります、之に依つて陸軍などの側に於ては、不良少年が監獄に這入つたが爲めに、普通少年に優る所の善良な兵隊になることが出來たと認めて居るといふことでありまして、一般に軍隊に於ける此出獄少年者の信用は普通の者よりは却つて厚く、現に此中の四五名の者は下士官にまで選ばせられたといふことであります、

監獄は無効のものである、監獄に於ける刑の執行に因つて犯罪人を改良感化するといふやうなことは到底一片の理想に止まることであつて、決して事實の上に之れか効果を見ることは出來ないものであるといふやうな反對論が往々にしてあることであります、右申した如き顯著の効果ある所を以て見れば決して理想に止まるものであるといふことを是認することは出來ないのであつて、監獄の建築なり、規則なり若くは之を執行する所の方法如何に依つては、必ず實行を奏すべきものであるといふことを斷言しなければならぬと思はれる、

此塊地利に於ける幼年囚監獄の成績は誠に善良なものであるけれども、如何せん此の如く完全に造られ又完全に取扱はれて居る所の監獄の数はまだ極めて僅少であつて全体の幼年囚を悉く収容することが出來ないのである、悉くどころでは無い僅に一小部分の者しか収容することが出來ないといふことになつて居るのであつて、今日の所では毎年平均して百五十二人内外位に止まつて居るのである、塊地利の當局者などは此の如く成績の好いといふことに付いて、切めて幼年囚だけでも是非其總ての者を完全の監獄に入れて、適當に取扱つて見たいといふ希望を熱心に抱いて居りますけれども、財政上の都合に於て

「マールブルヒ」の幼年部

同輩幼年出獄者の成績

監獄理想は止まるにあらざるに

完全の幼年囚監獄

許さぬが爲めに、此事を決行することが出来ないことを非常に遺憾に思つて居るといふことであります

監獄の
實況

是から少し裁判所監獄、即ち小監獄の實況に付いて御話を致して見ませうが、概括して申し上げます、
 到る處の小監獄總て不完全なるを免れないといふことは前にも申しした通りであります、併し中には稀
 に稍々完全なものも無いではないので、例へば「ライヒンベルグ」「ブリュククス」「テッシエン」などとい
 ふ所に在りまする監獄は所謂裁判所所屬の監獄でありますけれども、此處等には分房なども澤山あつ
 て、多數の者を分房に拘禁することが出来るやうになつて居ります、併し他のものは悉く不完全であ
 る、不完全も不完全殆ど行刑又は治罪の上にて於て最も必要な條件の一つも満たして居らないといふが
 如き實況であります、私も獨逸や奧地利に於て澤山此小監獄なるものを視察して見ましたが、到る處
 定役のある囚人に對しても仕事を與ふる事が出来ない、即ち空しく唯監房内に閉ぢめて置くといふや
 うな有様で、又教育も施さなければ教誨も規則正しく行はないといふやうなわけであつて、殊に甚だし
 いのは斯ういふ小監獄などに於ての役人の如何にも下賤なる、無教育なる人物のみであるといふこと
 で、あつて其役人も極めて數が少いのであります、其職務の實況に因つて見まするには、眞に牢屋の番人
 に止るといふても宜しいのであります、監房内で囚徒が何を致して居らうと看守者などは一向無頓着
 であつて、又看守者が不足であるが爲めに充分に視察戒護の任を盡すことも出来ないものであります、
 看守者が唯僅に一人のみであるといふやうな所も澤山ありまして、其看守者も常に監獄に當番をして居
 るといふのでは無く、或時には裁判所の使にも行かなければならず、又自分の用途にも出るのであつて

食手徒

人物最
劣定員
不足

牢徒の
名空す

其留守はさうして居るかといへば、女房が預つて居るといふやうな次第でありまして、實に不規律千萬
 なものである獨逸を旅行した時分に「ハイデルベルヒ」……此處には大學も在る處で日本人なども是れま
 で多數留學して居つた有名な一つの都であります、此處の監獄を見に参りました時分に、監獄の内
 門を明けて受付をして呉れたのが五十前後の婦人でありまして、而かも五ツ六ツの小兒を連れて居りま
 したか、監獄の受付に婦人とは始めてのことでありまして先づ一驚を喫しまして、後になつて聞いて
 見ますると、此婦人は看守長の女房であるといふことでして、詰り夫婦で此内部に住んで居るものと見
 へます、總て向ふの小監獄の官舎などと申すのは、殆ど囚人の居る監房と唯一重の壁を隔つて居るとい
 ふやうな姿で、丁度横濱などの亞米利加領事館の監獄などと同じ体裁であります、それで此監獄など
 は小監獄の中でも随分規模の大きい方でありまして、平均四五十人の在監人はあるのです、此中には曾
 て日本の留學生であつて、何か酔興の餘に短銃で撃つたとか申す事件で暫く拘禁せられて居つた
 ことがあつたと申すことで、其監房なども示されまして赤面したことであります、其後多數の小監獄を
 見まして、亭主の不在の時に女房の番をして居るといふやうな場合には屢々出會はして後には格別不
 義にも思はないやうになりました、さうして總て小監獄などに於ては囚人の賄ひといふものは、所謂牢
 番人の受負でありまして女房が内職仕事に小兒でも相手にして賄ひをする、何のことはない下宿屋のや
 うなものであります、

妻、夫
に代つ
て監獄
を守る

看守の
定員は
不足
看守の
區々た
ること

看守の定員なども誠に區々たるものであつて在監人は同數であるにも拘はらず、例へば「ウキナ」に於
 ける裁判所監獄などには上等官が九人、看守が八十人もあります、

すると、看守が三十一人で、上等官は僅に一人である、是は小監獄ではありませぬが、裁判所監獄の不整理であるといふ一斑を知ることが出来るので、又同じ裁判所監獄で「ユングブントラウ」といふ所には在監人が四十三人ばかり居りましたが、其處に上等官が一人、看守が五人でありまするのに「ケーニヒグレンツ」といふ所の監獄には在監人が百二十人も居るのに拘はらず、役人といへば唯一人の上等官と四人の看守しか配置して居らぬといふやうな有様であります。

難及
手淫の
悪風

監房などの數も在監人に比して甚だ少いのでありますから、囚人別異などといふことは僅に男女を混同して置かないといふ位なことで、罪質は勿論、幼年者も成年者も一緒に拘禁してあり、甚しきは被告人と囚人と同一監房に置くといふやうな所も無いではない、極端に言つて見ますと、鶏姦或は手淫などいふ悪風が監獄の日課であるといふ如き實況で、弊害百出實に驚いたものであります。塊地利の治罪法に依りますると、輕重禁錮并に輕重拘留は裁判所監獄に於て之を執行するものとなつて居りまして、其禁錮の刑が最も多數であるものでありますから、勢ひ此不完全な監獄に多數の囚徒を拘禁するわけになるのであつて、之が抑々弊源であらうと思はれます、さうして此裁判所監獄は大概裁判所の判事が指名されて監獄を預つて居ることになつて居ります、即ち判事が典獄を兼務して居るのである、然るに此判事なるものは監獄の事には門外漢であつて、一向に監獄改良などいふことには注意をしない、適に監獄事業の趣味を感ずる者があつて、稍々改良に着手して見る者もあり得るけれども、其人が去つて後、に來る者は亦門外漢であるといふわけであるから、到底一貫して改良の成績を擧げるといふことは出來ないのであります、此事は監獄が司法省の所屬になつて居る所の他の國に於ても實驗するところの事情であつて、司法省で管轄するといふことになりますると勢ひ判事だとか檢事だとかいふ者を以て監獄の長官を兼ねしむるといふことになりまして其結果は獨立したる監獄事業夫れ自身の爲には甚だ不利益を被むることを免れないのでありますから、此監獄所轄問題などのことは餘程研究せねばならないのであつて、我邦などでも往々監獄を司法省に移すが宜いなどといふ議論がありまするが、此塊地利の實例などを餘程考へて貫はなければなるまいと思はれる。

弊源
判事兼
務す

監獄の
成敗
其能
はく
する

監獄を
司法省
に
移す
の
利
害

大審院の評定官である「ライトマイエル」といふ人が書いた塊地利の獄制論といふものがありまするが、此中にも裁判所監獄の悪い有様を痛論してあつて、之を改良することが目下焦眉の急であるといふことを述べて居りまする私が前に申した「ブラーグ」の監獄に参りました時分に其處の幼年部を預つて居る當局者の申しましたことに、此處に來る幼年囚が裁判所監獄を経過しなかつたならば一層顯著の成績を呈することが出来るであらうと思はれるし又此處に居る幼年囚が時として何か餘罪の發覺したが爲めに裁判所に引出されて其監獄に拘禁されることがあるが、其處へ行くに僅か二日か三日居る間に又元どに復つて、否一層甚しく悪くなつて、此處で長い間折角改良された人間が全く別者になつて、即ち以前這入つて來た時よりも尙は一層悪い者になつて、再び返つて來るといふやうな有様であつて、實に此裁判所監獄なるものは我邦の魔窟であるど慨嘆したことがありましたが、實際其通りであらうと思はれまする

拘置監
の
害

裁判所
監獄
の
利
害

監獄改良事業が非常に進歩して居るといふ歐羅巴に於ても、まだ内部に立入つて見ますると斯様な不完全な小監獄の實況を見ることもあるのでありまするが、併し悪い事は悪い事として我々が日本の監獄改良を圖る上に付いて、斯様な事は決して眼中に置くには及ばない、否寧ろ眼を掩ひ耳を閉ぢて見聞せぬ

須自費 察
 右の如き次第でありますから、墮地利では特に學者なり又は實務家が裁判所監獄の改良を絶叫するのみならず、當局者も銳意熱心に着々之が改良を務めて居ることでありますが、兎角世間では反對論が多い、どういふことを以て反對するかといふのは、詰り經費の點でありまして、學者實務家の希望する所は被告人、拘留囚、禁錮囚即ち是等の裁判所監獄に拘禁すべきところの者は悉く分房に拘禁すべく、従つて裁判所監獄は總て分房監獄に改築せざるべからずといふに在つて、之を實行するには非常に經費を要することでありますから中々困難なのであります、「ライトマイエル」などの説に據つて見ますと、區々たる經費何かある、治罪及び行刑の趣旨を貫徹し、正義公道に對する國家當然の義務を盡す。が爲めには一時の經費の如きは決して之を惜むの理なしといふことを痛論して居ります、(未完)

●典獄協議會の隆盛を望む

佐野 尙

予輩本誌前々號に於て、典獄諮問會に就て冀望を述べた題し、典獄諮問會の際尙實際問題を當局者より徵收して研究せられんことを囑望せしが、既に過般集治監典獄及び其の他二三縣典獄上京の際、板垣内相の訓示的演説ありし後、小河監獄事務官に於ても監獄に關する實際上の談話あり、且つ其の際當局者に向ひ他日再び上京の節は監獄に關する實際上の問題を提出し審議討論あらんことを冀望せし由、予輩の意見と殆んど異なる處なし、嘗て開らく可かりし典獄會議も在再今日に至りたれども、遅くも九月中旬には必ず開會せらるゝならん、果して然りとせば假令其の筋より問題徵收に付き、何等の通牒無くとも當局者たる各府縣典獄は自ら進んで、從來腦裡に湧出したる實際上の諸問題を携へ他日上京の際、典獄諮問會結了後宜しく典獄協議會を開き、是等實際上の諸問題を審議討論し以て各府縣監獄に關する、諸般の取扱を一定し併て現行監獄則は勿論其の他監獄に關する諸法規中、不可なりと思慮したる點は改正の意見を具し尙討論審議せば、他日監獄則改正の好材料となるのみならず、之を實務に實行するに當て能く立法の精神を誤らず肯綮を得るに至らん、而して從來の協議會を見るに隨行員たる書記看守長は之を列席せしめず、只典獄のみに於て討論審議するも予輩は書記看守長は直接事務を取扱ふものなるを以て其の各問題に對する便不便を能く知り却て明論卓説を吐露することを疑はず、然るに其の隨行員を協議會に列席せしめざるは予輩の大に遺憾とする處なり、予輩は本年の協議會より書記看守長をも列席せしめ發言權を與へ審議討論せられんことを冀望す、然れども府縣に依りては或は典獄一人のみ上京し隨行員なき事あり、或は一名或は二名の隨行員ありて一定せざるを以て、多數採決の際は等隨行員を起立數に加ふるは聊か穩當を缺くが如く思考せらるゝを以て、單に發言のみを許し起立は典獄のみに於てせられんば或は不可ならん歟、而して協議會の討論は詳細速記術に依て筆記し、他日印刷の上典獄諸君に分配せられんことを深く望む處なり、而して是等に關する費用の如き固より典獄自辦支出するに非れば他に費用支出の途なかる可し、今日監獄に職を奉じ監獄に熱心なる典獄諸君は焉んぞ是等に對する僅々の費用支出を惜むものあらんや、蓋し熱心なる典獄諸君の明論卓説を永く速記録に止め、他日諸般獄則改善の場合に裨益するあるは一點の疑なし、予輩は典獄協議會を愈々隆盛ならしめ、他日諮問會、開會に際し各府

縣典獄の上京を期し必ず實行せられんことを今日より囑望し置くものなり

●奉教心有無の標準に就て

在東京 洋々 散士

在仙臺藤吉智教君本誌第二百二十三號に於て奉教の念とは那邊にあるか敢て教誨師諸賢に問ふと題し身分帳上の奉教心有無の標準を質疑し併て自己の意見を表白せられたり然るに之に對し南溪光弘君及び織田信行君の駁撃あり續て藤吉氏の再駁南溪氏の反駁議論紛々として決せず散士は教誨師にあらざるを以て固より局外漢なり從て前數氏とは一面の識あるものにあらざるなり然れども散士嘗て監獄に職を奉じたることを以て囚徒教誨に就き多少留意したることあり又教誨をして有効ならしむる方法如何との問題に對し答案を本誌に掲げたることあり斯の如く監獄教誨に就ては種々の緣故あるを以て爰に不遜を顧みず公明正大以て藤吉氏外數氏の說に論評を試みんと欲す若し諸君の意に充たざるの點あらば尙教示の勞を吝む勿れ而して奉教の念なしとの標準に對しては別に異議者なきを以て之を畧す藤吉氏は奉教の念あるものとの標準に對し生家傳來の宗名若しくは自己の歸依せし宗旨を知り常に神佛に對し至當の禮拜を爲すものは奉教の念即ち信仰心あるものと斷定せられたり然るに南溪光弘君は本誌第十六號に於て之を駁撃して曰く生家傳來の宗名若しくは自己の歸依せし宗旨を知るが如きは多くは聞覺へたるのみにて必ず信心ありとは決し難し又神佛に對し敬禮を爲すものあるも教理の何たるを知らず又自己の匪心をも慚愧せず妄りに神佛に祈りて一時の饒倖を得んと企圖するものあるを以て此の標準にては到底眞實の信仰心あるや否やを知ることが得ず依て各宗聖教の所判たる眞正の信心を以て奉教の念あるもの、標準と爲すと云ふにあり故に言を換へて之を云ふときは信仰心を以て信仰心の標準と爲すと云ふに歸着す散士以上の二說に對し先づ批評を試みんに何れも不可なり何となれば二氏に於ては奉教の念あるものとは宗教の信仰心あるものと斷定し置きながら曷ぞ其の標準を誤るの甚しきや何となれば藤吉氏が外形上生家傳來の宗名若しくは自己の歸依せし宗旨を知り常に神佛に對し至當の禮拜を爲すものを目して直に宗教信仰心の標準とするは南溪氏の駁撃に云へるが如く其の不可なること明なり殊に身分帳記載の節は入監の際なるを以て常に神佛に對し禮拜を爲すや否やは囚人の口供に依らざる可からざるを以て其の囚人の口供虚言なりや知る可からず假令虚言にあらざして朝夕神佛に禮拜すると假定するも眞實の信仰心ありと斷言す可からず況んや至當の禮拜なるや否やは何に依て之を知るか斯の如き空漠の標準は以て宗教信仰心の存在を認むるの具と爲す能はざるなり然らば南溪氏の各宗聖教の所判たる眞正の信心を以て奉教心存在の標準と爲すと云ふの說は可なるや否やと云ふに散士は斯の如きものは標準にあらざると斷言す何となれば奉教心存在は即ち信仰心と云ふにあらざらば信仰心を以て信仰心の標準と爲すと云ふに至る抑も藤吉氏が奉教心の有無に對する標準を質疑せられたる所以は囚人の胸中に宗教信仰心あるや否やは一目して之を知る事能はず故に外形上如何なる事柄のあるを以て奉教の念存在の標準と爲すと云ふにあり然るを南溪氏の云ふが如く眞正の信心あるものを以て奉教の念存在するものと云はば、散士は敢て南溪氏に問はん南溪氏は眞正の信心あるとは何に依て之を知る歟是れ散士の聞かんと欲する所なり況んや各宗異なるに從て安心即ち綱要の異なるに於て之を現今教誨師は概して本願寺派なるを以て教誨師自身に於ては他力本願即ち頼むと云へる安心立命の點は之を知るならんと雖も其他各派の佛教は勿論神道耶蘇百教の宗教に於ける各宗聖教の所判たる眞正の信心とは如何なるものなりやは教誨師自身の胸中

雜 錄

●板垣内相の監獄談

(小倉監獄局長の談話筆記)

客月十三日午前板垣内相は上京中の菅井、千石、長屋、若山、其他警視廳の各典獄を大臣室に集め左の談話を爲されたりと謂ふ、全日午後には監獄局長は前記の諸氏に向ひ、左の談話を爲したり

板垣内務大臣の演說

今回内務大臣として就任したるに就ては監獄改良の事も是非實行したき考なり此事は曾て内務に職を奉じたる際も諸君の知らるゝ如く本來の素志なりし故に今回奉職したる節は大に着手し改良を實行せんと欲す併し諸般の要務多端の場合なるを以て未だ其緒に就かずと雖も監獄事業の改良は兼て宿論なるが上に尙内地難居の準備としても今日極て切要なりと認む

監獄は完全なる構造法に準據したるものに非れば十分に獄則を運用する能はず然れども是れ莫大の經費を要するを以て今尙苦心熟考中に屬し實行の運に至らず最むべき者に非るはなし此等の可憐の囚人を預る所の典獄は一層其職務に忠實且十分に勉勵するに非ずんば其任を竭くすこと能はざるべし本大臣は監獄事業に就き最も熱心なるものなり諸君奮て力を盡くされん事を望む

小倉監獄局長の演說

予は此度之を監獄局長に承けたるを以て監獄改良事業に就ては鋭意遂行せんと欲す往年嘗て佛書を繕き中マヤース監獄に關する記事あるを見、之を抄譯し其筋に呈出したることあり今日の鍛治橋監獄の如きは之に準據して設計を企てたるもの、如し其の當時に在て私に惟へらく亦以て甚たしき遺憾なからんと而して其後歐洲に遊ひ多少彼邦の監獄を視察し今日に迫んで之を顧れば其の不完全なること實に驚くに堪へたるものあり斯の如く監獄の局面は日に月に進歩せりと雖も我邦の監獄は依然尙舊態を存し著しく其面目を一新するに至らざるか如き觀あるは予の大に遺憾とする所なり監獄改良の急務は歐洲に在ても學者實務家皆之を唱道す然れども如何にして之か實行を企つへきやとの問題は經費其他關係する所極めて廣く頗る至難のところに屬し

早今日に至ては諸君が之を待たずして獄則の許す範圍内に於て十分之が改良を計らざる可らず諸君は其職に從事すること長く且經驗も乏からざるを以て獄則等に對し意見あらば遠慮なく申出でられんことを希望す何れ是等を參酌し監獄則の改正を爲すの必要ありと信ず又之に依り他日再び諸君を召集して訓示するの機會あるべし

今日に於て最も急務とすべきは傳染病發生の時機にして赤痢杯も盛に流行せるの勢なるを以て監獄内に於ても十分力を盡くさる可らざることは従來監獄は兎角他の部局よりも諸般の改良事項を後回しせられ且當局者も自ら之を厭忌するの實況あり監獄其物の自体を考ふるに決して斯の如きものに非ず諸君の如き典獄の職に在る者は宜く自尊自重社會の惡事を除くは全く此職に在るを思ひ所謂諸君の國家に盡すに當てや須く好んで之に當るべきの職務とし十分に勉勵努力する所なかるべからず固と彼等囚人は殆んど訴ふるに道なきものなり僅に諸君に依て之を訴ふるの一路あるのみ彼等犯罪の素因は多く無教育若くは貧困なるに在りて其罪惡たるや惡むべしと雖も心事に至ては何れも皆憐

殊に我邦に於ては容易に之を斷行し難きの事情ありと雖も唯夫れ今日に於て諸君に希望するの一點は典獄職權の範圍内に於て改良し得へき事情は猶豫なく進んで之を斷行せられんことは是なり尤も其方法等に就ては詳細小河事務官と協議を遂げらるべく而して尙監獄改良の大方針に向ては諸君と共に計り其の實際談をも參考に費し將來大に計畫企畫する所あるべし

改正條約實施の結果として外國人の入監は免れざるへし是等の外國人は我邦に於て如何に待遇を爲すへきや是れ又今日に於て宜く講究すべき問題とす歐洲各國に在ては個人的の關係を省察し各之に依て待遇を異にするの實況ありと雖も從來我邦に在ては一樣に其待遇を施し以て刑の公平を得たるものと爲すもの、如し元來刑罰享感の度は各個人に依て之を異にするを以て從て其待遇も亦各個人に依て之を異にすへきを至當と認むるに似たり

是は極て一小事なりと雖も前述したる典獄職權の範圍内に於て改良を企つへき一例として示さん例へは辯護士の被告人に面會を請ひ事實の問合を爲す際も警護の看守長若くは看守往々其言を制して再び陳述を爲さし

めす或は面接時間經過の一言を以て其陳述を杜絶せしむるの實況あるを見る是等以宜く當局者の注意せざる可らざる事項と信す尙又被告人重病に罹りたる際監獄醫一々之を典獄に報告せず或は報告することありと雖も篤篤屈と死亡届と殆んど同時に典獄に差出す向もあるが爲めか往々にして監獄より其病狀を親族又は裁判所に通知せざる可あり偶々通知するあるも其時機を失し保釋責付の手續を終へ出監せしめたる時は早既に死亡に瀕するか如き又は親族故舊は生前、面會すること能はずして互に空しく怨を呑み或は時として拯ふ可らざる權義の損害を蒙らしむることなきに非ず斯の如き事項は誠に予の實驗に係る例証として掲げたるに過ぎさすと雖も其他諸君の職權の範圍内に於て尙改良を企つへき事項多々あるへしと信す要するに監獄の處遇法は全然囚人と被告人とは其間區別を存し待遇法を異にせざる可らず此觀念を以て紀律を害せず衛生を損はず刑罰若くは治罪の目的を貫徹せんことを勉め鋭意此方針に依り改良せられんことを望む

監獄建築は今日言ふへくして直に行ふ能はざるの事情あり監獄費國庫支辨も亦或は遽に之を行はざるの困難井然として確保せらるゝに至る所以のものは全く秩然として器具を排列し、在監人は悉く端然正坐些の行儀作法を紊さること紀律の本源なれ、監房内の紀律は須く正坐に依て維持せられざる可からずと、此旨義に依て今日に至るまで強制勵行せらるゝに至れり、故に若し失れ形式的に於て著しく進歩したるの点ありとせば是は則ち正坐に在りど謂はざる可からず、到る所の監獄幸にして乱坐踰躅を廢し、放言笑語の虞なきものは全く正坐の効能たるを斷言するに憚からず然りと雖も正坐の盛に勵行せられたる當時より今日に至る迄、予輩をして忌憚なく言はしむれば、多少紀律たるの趣旨を誤解したるには非るなき歟、誤解に非ずとするも或は之を解釋する上に於て不十分の誹は免かる能はざらむ

予輩の紀律を解するの本旨は、國權の作用發動をして嚴格ならしめ、信實必罰恰も影の形に伴ふが如く敏捷捷給、一たび監獄官吏の口より發したる所のものは是れ所謂國權の作用に外ならざるを以て、蓋に私意を以て取捨斟酌する所なく、斷然として之を執行するの勇氣を保持し、彼等犯人をして國權の下に反抗すること

もあらん然れども今尙若々之を完行するの計畫中に屬す監獄改良事業に關する詳細の事項は尙は本省に於ても將來大に調査を盡くす所あるへし諸君は既に御承知の如く大臣閣下も此事業には極て熱心せらるゝを以て諸君は此際一層斯事業に盡瘁し専心改良を計られんことを希望す

●監房内の正坐

(紀律に差支なき限は安坐を希望す)

素と監房内に正坐を強制するに至れる所以のものは監獄に紀律てう必要事を知りし以來即ち明治廿四五年頃のことにして、以前に在ては所謂牢名主の意思如何に依り占斷せられ、自ら多少の紀律存在したりと雖も、是等の權力廢滅に歸せし以來、專擅の氣風頓に高まり監獄を以て自家の結構と爲し、文墨風月を以て悠然日月を消すると惟一の樂と爲し、甚たしきは歌舞宴曲杯觴の交を呈し、殆んど自由刑の本旨たる者那邊に在るかを知るに苦しましむ

練習所の開設以來、監獄には是非共紀律を勵行せざる可からざることを知り、先づ第一着手として監房内の正坐を強制するに至りぬ、當時に在ては惟へらく紀律の能はざるの感念を養成するに在り、紀律を勵行するの趣旨誠に茲に在りど雖も尙其他に之を強制するの必要なる理由あり、則ち彼等犯人は多くは懶惰不紀律の生活に慣るゝを以て、此惡習慣を打破し以て、善良なる習慣を養成するに與て力ありとす、此の二の理由あるを以て記律を勵行するの必要を生ず、然るに正坐なるものは如何、果して紀律確保に必要なりや、我國風上固より正坐は美風に相違なしと雖も、之を勵行強制して迄も尙此美風を保たしむるの必要ありや、若し正坐を廢止すとせば紀律の廢類は自然之に依て生ずるを免かれざるや、以下少しく之を研究せむ

彼等の身体をして放縱自惰樂ならしむるよりも正坐せしむること必要なりと雖も、終日勞働し終て尙端然正坐せしむるは獨り酷に失するのみならず、衛生上尙或は有害なるを免かれざるべし、且況んや此習慣たるや出獄後と雖も是非保持せざる可らずと謂ふ程の必要習慣に非ざるに於ておや、恰も大人を小兒視し行儀を教ゆるか如き拘束の觀あり、是を以て或一派の論者並に實際家は正坐を以て苦痛の一種となすの傾あり、苦痛には相違なしと雖も其の苦痛には自から積極的に改後

を助くる所の分子を包含せざる可からず、然るに正坐は若痛其物の性質に依り或は改悛を來すやも知れずと雖も、是れ消極的に苦痛に依て改悛したるに過ぎず、積極的に良習慣として養成するの必要を生じ、從て苦痛を與ふるの類に非ず、今日に社會に於ける勞働者の實況を顧みるに正坐なる者は到底爲し得べからずと爲し、胡坐踞するの有様なり、故に正坐は毫も出獄後の状態に關して良習慣と謂ふべきに非ず、且之を廢すとせば爲めに紀律の敗類を來すや如何と謂ふに、固と正坐なるものは形式的に秩序を保つと謂ふ体裁上の行爲に過ぎず、紀律の本旨は寧ろ斯かる形式的よりも、實質に存し、國權の作用を吾人の到底抵抗する能はざるの感念を養成するに在るを以て、斯の如き小兒的行爲を強いたりとて之か爲めに紀律の維持せらるゝものとは謂ひ難し、若し紀律の維持を欲せば正坐以外幾多の方法あり、否正坐は必ずしも紀律を確保する所以の道に非ず、紀律はかゝる形式兒戲的に存せずして、實質精神的に在り、是を之れ諒せずして徒に紀律を以て論ずるは、實に紀律の本旨を解せざるものと謂はざる可からず、我輩は實に今日紀律なるもの、誤解せら

る、こと多きを思ふ、故に一言正坐説に附記して茲に之を謂ふ
 既に正坐と眞個の紀律とは何等の關係なきものとせば、我輩は甚たしく、亂雜に涉らざる限りは安坐を爲すも、差支なしと思考す、然れども絶對的に總べて如何なる態度を探るも可なりとは謂はず、分房制に在ては殆んど彼等の自由に一任するも可なりと雖も、雜居制に在ては多少房内の亂雜を避けしめんが爲めに相當の態度を探らざる可からず、此故に多少の正坐を類したりとて處罰を施すか如きは少く酷に過ぐるの嫌なき能はず今日の監獄は到る所皆正坐を勵行し、形式上甚だ秩序めきて大に可なり、されど甚たしく亂雜に涉らざる限り安坐を許すも亦不可なからん、當局者十分に此眞意を解して多少の寛和手段を探るこそ好けれ

●衛生事務の不振

(醫師の猛省を促す)

大臣並に局長の演説にも一寸見へし如く、兎角監獄衛生事務は不振にして、今その一例を舉ぐれば醫師は兎篤届と同一に死亡届を典獄に差出すを以て偶々之を親戚故舊に通知せんと欲するも既にその機を失し、生前自ら反省する所あるに至らむ

●監獄費國庫支辨の議

(當局者の談)

内務當局者の談に依れば監獄費國庫支辨は財政上の都合に依り明三十二年度より實行すると能はずして、明後年度より實行するの見込みなり、依て本議會には之を呈出せず、或は單に法案のみの提出に止むるやも知れずと謂ふ、左なくば確かに其筋の者の約言若くは書面を徴し置き、三十三年度よりは、是非共斷行せしむるの方法を探らんと意氣込なりと、かくならんことこそ吾人の望む所なり、尙聞く所に依れば明年度より監獄費を國庫支辨に附する能はざる所以のものは、本議會に於て増税の方法を計畫するとも明年度に於て始めてその収入を得る次第なれば、到底支出より明々年度迄俟つに非ざれば實行し難き理由なりと謂ふ

●典獄の召集

(九月上旬)

前號紙上に於て典獄召集は總選舉後と斷はり置きしが尙聞く所に依れば九月上旬ならでは開會するの運に至らずと謂ふ、多分本月廿日前後迄には其の旨の訓令を

の面晤を遂ぐる能はざらしめ、或は醫藥調治の粗雜なる時に如何なる調劑配合を爲したるやを忘却するの状況あり、殊に入監時に際して身体の診視を十分に爲さざる爲り、不當の役業を科し、又は監内衛生の方法に注意せざる等概して云へば今日監獄の欠点とする所、多くは醫務に在りと謂ふも、強ち誣言に非ざるべし、職に在る所の士今少し留意猛省せられんとを請ふ

●偽病者を防ぐの方法

(減食を可とす)

病者は午前に診視するを以て例とするを以て就役に際し、若し病者あるときはその間多少の時間役業を休止せしめざる可からず、是を以て勢偽病者を生じ易く一時偷安を貪らむとするの輩あり、故に獨逸杯にては之を處するの方法、醫師に於て明かに偽病者と鑑定したるときは嚴罰を以て之を處分し、若しまた單に一回の診察位にて病症の不明なるときは先づ以て減食の處分を探り、是れ處罰の意に非ずと雖も、實体既に處罰にして且この方法たる、万病に可にして、衛生の法に適合するの良法たり、我國に於ても、近時偽病者の數を減じたりと雖も、若し是等の方法を探るに於ては、

發せらるゝならむ

●監獄内の關鍵

(一個の鍵を以て自由に開閉し得ざる可からず)

監獄構内の關鍵は常に一定し置き、一個の鍵を以て監獄内、到る所自由に開閉し得るの便に供せざる可からず、然らざるときは、非常事變に際して其の機を失するの恐あり、而してこの鍵は典獄常に之を保管し他の副鍵ども謂ふべきもの即ち同一の鍵は看守長之を保管せざる可からず

●獄政の振はざる原因

(小河事務官の談)

過般小河事務官は九州地方に出張し、三池集治監其他に於て吏員を集め演説せらるゝ所ありたり、其の要旨とする所、頗る吾人の注意を惹くに足るべき點多からず、故に茲に之を摘録し、諸士の參考に供す
今日獄政の未だ全く改善の域に進まざる所以のものは我國の監獄は何れも構造の不十分なるとは勿論にして之を外にしては、大体遇囚の方法に重きを置かざるに在り、獨り遇囚の方法如何を看守長のみに一

を講せざる可からず

●書信の檢閲

(成るべく敏活ならしむるを要す)

書信の檢閲、數日に涉り爲めに往々其の目的を喪失せしむる虞あるを免かれざるは往々出獄者より聞知する所なり、而して事の実際は被告人に在ては裁判所に回付するを以て、之が爲に數日間淹留するの嫌あり、是を以て監獄に於ても裁判官と協議を遂げ、犯罪事件に關係せざる書信は監獄に於て便宜處分を爲すこと、至極適當ならむと思はる、現に其の取扱手續に出づるの府縣も亦尠ならず、斯の如くして而して一面監獄に於ても成るべく敏活に處分を爲すこととせば、多少苦情を免るゝことを得む

●監獄則の改正は果して如何

(本年の議會に提出せられんとを望む)

聞説く、改正刑法草案は委員を設けられ、今一應審査を遂げたる後ならでは議會に呈出せられまじ、依て本議會には提出の運に至らじと、或は然らむ、然れども監獄則の改正は如何、刑法改正の後ならでは發布する能はざるか、行刑の方法を規定する所の監獄則は必ず

任し、一課若くは三課員の書記は單に簿冊を取扱ふを職務とし、敢てまた遇囚の如何をも顧みず、是れ我邦監獄の現況にして、一大弊害とする所なり、監獄事務は悉く是れ遇囚の如何に胚胎せざるものなし、若し遇囚の旨義を離るれば既に治獄事務なきものと謂ふも可なり、故に書記も亦屢々囚人を訪問し身上の調査を爲し、若くは役業の適否を顧み、直接其者に對してこころ、始めて個人的關係を省察し得るなれ、徒らに簿書堆裡に身を沈め、齷齪刀筆の吏と爲るは監獄官吏と謂ふを得ざるなり、是を以て將來は書記看守長の區別ある名稱を廢し、他に相當の一名稱の下に包括せしめんと欲す云々

ど、實に剴切の言と謂ふべし、今日の弊事寔に遇囚の如何に曉通せざる一事に在り、一課三課の書記と雖も囚人に直接するに非ずんば、身分帳若くは役業の適否を知悉する能はざるなり、然るに囚人に關する事務は悉く之を看守長に一任し、己れ獨り凡案に對し算筆を採るが如きは、到底監獄の改善を望むべき方法に非ざるなり、是を以て將來書記の職に在る者ど雖も極めて囚人に直接し、十全に其職務を完美ならしむるの方法

●逃走囚の増加

(警戒に注意すべし)

近時に至て殊に逃走囚の頻々續發し、内務省への報告引きも切らざる有様なりと謂ふ、何たる不祥ぞ、氣候苦熱なる際自から戒護の疎なるに依らざるを得ひや當局者一層戒護に注意する所なかる可からず

●監獄局の消息

(河原、荒木の二法學士の新任)

本年の法科大學卒業生河原正治全荒木大助の兩氏は客月内務屬監獄局勤務を命せられたり、局員上田定次郎氏は宮城集治監典獄更迭の爲め事務引繼の監督として全監に出張せられぬ

●警視廳典獄の異動

(濱田典獄の非職并に若山、有馬、荒木三氏の轉任)

警視廳第四部長鍛冶橋典獄濱田彦一郎氏は、警視より榮轉せられ未だ數月を経ざるを以て、敏腕を振ふに由なかりしが突然非職を命せられたり、其の原因は當時警視總監たりし園田安賢氏と意見を同よし、現政府と主義を異にし居る爲め斯く非職になれりと云ふ、予輩は警視廳典獄が現今の如く履更迭するは監獄の改良上曠す可きの至りなり、殊に鍛冶橋監獄署所在地は、中央停車場に相當せるを以て本年中他に移轉せざるを得ざるの場合に遭遇し居るにも拘はらず、之が移轉地さへ確定し居らずと云ふ、然るに斯の如き重大なる事件を控へながら四部長の更迭頻繁なるは其の意那邊にあるやを知らず、今や幸に獄事に經驗あり且つ敏腕の聞へある神奈川縣典獄若山茂雄氏の襲踏する處となりしは吾人の尤も喜ぶ處なり、而して巢鴨典獄荒木賢愛氏は北海道釧路分監長に轉任し、之が後任は内務屬有馬四郎助氏の榮轉となり、氏は嘗て埼玉縣典獄北海道分監長及び拓殖務省監獄事務に従事し、其の後拓殖務省

廣止せらるゝや入て内務省監獄局計表課長たりしが、今や此の榮轉を見る、固より當然の事なり、氏より將來敏腕を振て獄事の改良を計らんことを囑望す

●各地典獄の大更迭

(榮轉者の敏腕を刮目す)

板垣内相は兼て獄事熱心家なりしが、獄事の改良を期せんと欲せば、其の局に當る典獄の人物を精選せざる可からざることに着目せられ、爰に大英斷を以て宮城集治監典獄小泉保直、北海道分監長千石徹及び新潟縣典獄山室元吉氏外十一縣典獄に非職を命じたり、而して是等の後任は北海道分監長畑一獄宮城集治監典獄に山口縣警部市川阿蘇次郎埼玉縣典獄に、内務屬杉野喜祐群馬縣典獄に、宮城縣警部野口謹造茨城縣典獄に、長野縣監獄書記宇田徳正静岡縣典獄に、愛知縣看守長山崎正岐早縣典獄に、北海道集治監書記野崎宏福島縣典獄に、全看守長松山爲治青森縣典獄に、廣島縣看守長山縣高齊山形縣典獄に、鳥取縣典獄堀内久保北海道集治監十勝分監長に、八田説明空知分監長に、富山縣典獄木名瀬禮助新潟縣典獄に、沖繩縣典獄長谷川信綱鳥取縣典獄に、福岡縣典獄木戸麟愛媛縣典獄に、宮崎

縣典獄河俣政幹福岡縣典獄に、茨城縣典獄柿木原政澄宮崎縣典獄に、三池集治監書記山口卯太郎富山縣典獄に、佐賀縣警部角尾小彌太島根縣典獄に、山口縣警部小野勇次郎佐賀縣典獄に、大分縣監獄書記兼看守長佐藤元次郎沖繩縣典獄に、福岡縣警部黒澤廻岡山縣典獄に榮轉せられたり、予輩今回の後任者を見るに監獄局外より入りしものは僅々五名にして他は凡て監獄書記看守長より拔擢せられたり、余輩尙に以爲らく、蓋し斯の如くに至りし所以のもの小河監獄事務官に於て、責任を負擔し人物を精選せしものならんと推知せらる果して然りとせば是等の新任者は將來熱心獄務に従事し、敏腕を振ふて獄事の改良を計り小河君の眼識に恰當せざる可からず、諸氏に於て萬一監獄に失体を生ずるならば、諸氏の不名譽は勿論小河君に於ても鑑識を誤りたるの誹りを免る可からず、嗚呼諸氏の責任重大と云はざるを得ず、予輩刮目して諸氏の敏腕を見んと欲す、諸氏敏腕を振ふに防碍なるものは之を刈除し着着敏腕の實を擧げよ

●雇員俸給範圍の擴張

(二十圓以下支給に閣議決定す)

●判任官の俸給

(最下級二十圓にせられたし)

雇員の俸給は前項の如く二十圓迄支給し得ることに閣議決定せられたり、然るに雇員より地位上位にある判任官にして十二圓若しくは十五圓なるは蓋し權衡を得ざ

雜給支弁の雇員にして、特別の技術を要するもの、外月俸十五圓以下を支給し得ることに閣議決定相成りたる越明治二十九年八月内閣送第三一號を以て、内閣書記官長より通牒相成候處、爾來物價暴騰更に甚しく、一般生活の程度も遂日上進の趨勢を呈し、隨て右既定の俸給内にては、今日適當の雇員を使用し得ざる場合に立に至り、事務の進捗上少なからざる不便を生じ候に付き、雜給豫算定額内に於て支弁し得る限りは、一ヶ月金二十圓以下を支給し得ることに決定相成度此段至急閣議を乞ふ旨本年七月十六日農商務大臣大石正巳氏より、内閣總理大臣伯耆大隈重信氏に請求せし處、全七月二十七日講議の通り閣議決定相成りし趣、内閣書記官長武富時敏氏より各省次官迄通知せられたる由、予輩は雇員諸君の爲め之を祝す、願くば當局者たるもの豫算の範圍内に於て俸給増加するとに吝なる勿れ

るの甚しきものなり、殊に文官普通試験を経て合格したるもの、如きは固より相當の學力あるものなり、然るに尙十二圓にあらざれば採用せざるが如き最も二十五圓迄は採用し得るの道あるも畢竟十二圓若くは十五圓の階段あるを以て、此の最下級に採用せらるゝも亦如何ともする能はず、予輩は判任最下級即ち十級俸を二十圓とし、是より順次五圓宛を一般の階段として三級に至り三級より二級は十圓二級より一級は十五圓即ち八十圓に至り、尙一般俸のものは特に九十圓若しくは百圓を給することを得る様改正せられたし、是れ吾人の冀望する處なり

●外國新聞の誤謬記事

(正誤せられんことを望む)

近來日本に於て、外國人の手に發行せられつゝある英字新聞に於て、我監獄の參觀記事を掲げたるあり、然るに其の記事たるや、多く誤謬の記事を掲げ慘憺云ふに忍びざるが如く見ゆれども、吾人の目より之を見れば實に一價値なき記事なり、然るに外國人に於ては其の實際の事實を知らざるを以て、更に此の記事を轉載し爲めに我監獄の名譽を毀損すること甚し、抑も斯の

如きに至る所以は我監獄當局者に於て、英字新聞を購讀するものなきに因る、否な購讀せんとするも之を讀み得ざるもの多々あらん、予輩以爲らく司獄官たるものは將來充分外國語を研究し、是等の英字新聞を繙讀し若し誣妄の記事を掲げ居りしが如きあらば之を駁撃すべし、殊に明年七月より條約實施の期至らば我國にて發行しつゝある外國新聞記者と雖ども日本の新聞紙條例に依らざる可からず、果して然らば正誤に應ずるの義務を負ふものなるを以て、事實無根の事は、宜しく正誤の申込を爲さざる可からず一言記して當局者の參考に供す

●各府縣監獄公報に就て

(編纂者諸君の再顧を煩はす)

近來集治監其の他各府縣監獄署に於て、或は監獄報と題し或は集治監報、監獄彙報其の他種々の名稱を附し毎月一回宛監獄の公報を發刊し監獄署員に配付し併て他監獄の公報と交換し、以て監獄の改良進歩を計れり是れ誠に斯道の爲め喜ぶ可きの至りなり、予輩は益々是等監獄公報を盛ならしめ一監獄必らず一の公報を發刊せられんことを深く冀望す、此頃各府縣に於て發刊

せられたる監獄公報を一閱せしに、多く平々凡々否な一奇怪の感と惹起せしものあり、依て爰に披見の大略を掲げて監獄公報編纂者の再顧を煩はさんと欲す

某地の監獄公報は監内規則製造より進歩して今や純然たる統計雜誌の感あり、某縣も又其の軌を學びつゝあるも今は少しく倦怠の如く見ゆ、又某監獄の如きは殆んど教諭報とも云はん、何となれば其の記事多く教諭のみに偏するを以てなり、又某縣の如き看守を召集し下等なる料理店に遊ぶより寧ろ高等なる料理屋に遊ぶ可しとの教訓を掲載し、或は鍛冶橋殴打事件に基因して發せられたる其の筋の秘密的内訓を率先して公報に掲記したる監獄あり、或は某縣の如き恬然教諭主義と云へる者を公報材料とせしが如き、予輩は之を一讀し喫驚措く能はず、何となれば公然たる監獄報に其の筋の内訓を掲記するが如き、或は監獄雜誌上に掲載するが如き論説を掲載し、恬として怪まざるは其の意那邊にあるや知る可からず、今竊て數年前の監獄公報を繙くも尙發刊の趣旨を要言し、監獄要旨と題したる意見を續々論述したるあり、或は作業論を掲記したるあり是等は監獄の公報に非ずして寧ろ監獄の雜誌と云ふ

も不可なからん歟、蓋し官報署内訓達或は書記、看守長、看守の進退等のみを掲記するものに比すれば却て署員の卓説茶話さては料理店の高下を公報誌上に論ずるは時に取て有益なりとの考より、爰に至りしものならん、然れども予輩は之に反對するものなり、何となれば監獄に關する論説等を發表せんと欲せば既に本協會雜誌及び監獄雜誌等のあるあり、宜しく之に掲記すべし何を苦んで一個人の意見を監獄公報に掲記するの愚を學ばんや、現今出版物に對しては出版條例のあるあり、當局者は此の規程に抵觸せざるの範圍内に於て發刊せられつゝある事は、予輩の言を俟たざる處なれども、只府縣監獄公報の材料の多からん事を冀望するの餘り、種々異様の材料を掲記するが如きは予輩の採らざる處なり、假令材料少きを爲り紙數頁の多からざるも掲記したるものは監獄公報の性質に適合するもの、みならんとを監獄公報編纂者諸君に深く望む所なり

●人身測度法に就て

(本誌六十九號以下再讀を要す)

監獄事務官小河滋次郎君は第四獄事茶話會に於て、ペルチヨン氏の人身測度法に就て、詳細なる談話を爲し

且の現物の器具を示し以て之が應用を示されたり、該器具は皆て園田安賢氏歐州に赴かれたる節、之が随行員たる警視廳屬加地鈔太郎氏の携へ歸りたるものと云ふ、今や小河君の説明に依て人身測量法の必要なる大に當局者の注意を惹起せり、而して該人身測量法に就ては皆てベルチヨン氏より詳細なる説明書を加地鈔太郎氏の手許に送付せり、當時加地氏は之を翻譯し明治二十七年二月本誌第六十九號乃至第七十六號に連載し緻密なる圖画あり、今や之を繰返し、當局者に於て一讀するならば其の裨益する所豈尠少ならんや

●監獄則一部の改正

(解釋一定す)

本年勅令第四百號を以て現行監獄則中の一部改正を加へられたり、即ち同則第二十八條第一項中榮代一錢以下どありしを貳錢以下ど改正せられたり、從來現行監獄則全体か法律として効力ありや、又は各個條に付き憲法上より之を觀察し特に法律を以て規定を要するもの、如きは法律として効力あり其の他は勅令として効力ありと云ふ二個の學說あり、其の結果として前者は監獄則中一部の改正と雖ども帝國議會の協贊を経法律

る筈なるに今尙舊の如く副書せらるゝ向ありと聞く斯くては繁文省略の趣旨に反すへければ自今之を省き其力を他に致されんことを望む

附言假出獄上申書に所屬長官の副書を要せざること

は前掲の如し然るに假出獄上申は刑法附則第三十八條に依り當該囚の行狀及刑名入監の年月等取も直さず本人の行狀の良否及刑期四分の三經過の有無を詳記すれば是るものゝ如く見ゆるに彼の二十六年内務省訓令第二十九號に依り身分帳の様式を定められたる以來警保局長より府縣知事に通牒し行狀表は勿論身上表視察表賞譽表懲罰表並に警察署の身元調査書等を添付することとなりたるを以て一名の假出獄を上申するには少なくとも二拾葉に近き書類の謄寫を要せり、假出獄は行刑上最も重大の件なるを以て斯く慎重にするは當然なるへけれど典獄に於て之か上申をなさんとするには身分帳に據り前記書類を調査するは愚か書記看守長或律師等に諮問し慎重の手續を盡し即ち責任を以て之か調査を爲し苟も盲目的輕卒の取扱を爲さざるものどすれば斯る多くの書類を添屬せしめざるも刑法附則に示す如く行狀の良否及

を以てするに非れば増減變更を加ふることを得ず、後者は憲法より觀察して特に實體上法律の性質を有せざるものは勅令を以て増減變更を爲し得ると云ふに至る然るに我當局者は遂に後説に依り勅令を以て一部の改正を斷行せられたり、是れ予輩の贊同を表する處なり予輩は此の説を以て尤も至當の事と思考せり、蓋し現今物價騰貴の爲め在監人一日の榮代壹錢以下にて其の不可なるとは何人も認むる處なり、故に我當局者は現行監獄則全部改正の必要あるにも拘はらず取敢へず緊急として姑息の一部の改正を加へられたるものならん、然れども此の改正は甚だ遺憾の點あり、即ち最高額の區域を擴張せられたるのみにて其の以下の制限なきを以て、尙從來の如く壹錢以下を現に給し居るといへども敢て勅令違犯にあらざるを以て其の儘に爲し置くも如何ともする能はず、又本勅令發布の爲め特に追加豫算として請求するをも得ざるなり、予輩は壹錢以上貳錢以下ど改正せざりしを遺憾とするものなり、

●繁文省略

(其趣旨を服膺すべし)

假出獄及假免監視の上申書は所屬長官の副書を要せざ

刑名入監の年月日等を上申書に詳記し若し必要とせば刑執行指揮書裁判宣告書の謄本を添付することに改正せらるれば一は典獄の責任を重じ一は多數書類謄寫の勞を省き所謂繁文を省略して却て其實を見るに至るならんか敢て當局者の參考に供す

●監獄官練習所

(設置の確定せむことを望む)

一回提出せられたる監獄官練習所設置費の議會解散のため成立せざりしとは前號に記載せしか今や板垣内相は其計畫を贊成し同省豫算會議に付し同會議の容るゝ所となりたるやに聞く、改正條約實施も目睫の間に逼りたる今日に在り否らざるも之を設立し當該官の養成は斯道改良上最も必要なるへければ其閣議に登るも素より異議の出つるとなかるへし果して然る時は第十三議會に提出し其協賛を得ば來年四月より其施行準備に着手し遅くも九月頃より開所せらるゝに至るならん

●看守教習

(期間内必ず之を施すべし)

看守の教習期間は二ヶ月と定めあるを以て此間に於て職務上必要の教育を施さざるへからざるに配置若は欠

員を口實とし之を省略し若くは期間を短縮し加之教習中の看守をして單獨實務に就かしむる等教習は全く儀式にして其實なきもの多くなきだに物價騰貴して生活の困難と諸般の事業勃興し人間の需用多く従て比較的多くの賃銀を得らるゝを以て小給に安せざる結果志願者の人物従前に比し數層劣等にして記牒報告も覺束なきもの多々ありと聞く然るに前陳の如く教習を冷淡に看過し儀式的を以て終りたらんには何れの日か有爲の人物を養成し斯道の改良を見ん、殊に近時各府縣に於て在監人の逃走頻々其甚しきは監房を破壊し若くは數人共謀晝間公然逃走する者ありと其原因の那邊に存するかは調査の曉に在らざれば知るを得ずと雖も想ふに戒獄看守にして監獄思想の注入乏く所謂刑刑の何物たるを辨知せざる者多きは蓋し少なくも其一原因ならんか、其局に該らるゝ諸氏、奮發一番諸般の情實を排除し新任看守をして充分の行刑教育を施されんとを望む

●在監人の敬禮

(第二課長への號令に就て)

巡閱官判檢事其他典獄の監房工場を巡回するに當ては、看守より在監人に號令を下し敬禮を表せしむ、在監

人をして是等の高等官に對し敬禮を表せしむるは固より至當の事なり、然れども監獄に依ては典獄の外第二課長巡視の際も亦號令を下し敬禮を表せしむる處ありと聞く、是れ課長の威嚴を保持せしめんが爲めならん故に予輩は決して之を冷評するにあらず、然れども第二課長巡視の時のみに限り、號令を命ずるは恰も在監人をして第二課長あるを知て其の他の課長あるを知らざらしむるもの、如し、彼の獨逸監獄制度を見るに看守長は下等司獄官にして書記は上等司獄官なり、現今日本と雖も書記看守長は同等判任官なるも、書記は看守長の上席なるを以て、時に依ては典獄の代理を兼務することあり、然るに書記たる第一課長第三課長監房巡回に際しては、在監人に號令を掛けしめざるは決して當を得たるものにあらず、蓋し斯の如きは第二課長一人のみ威嚴を保つことを得るも他の課長は威嚴を確保する能はざるに至るを以て、寧ろ典獄以外に於ける第二課長に對する號令は之を廢止する歟、然らずして課長に對し號令を掛る必要あらば凡ての課長俱に號令を掛る様せられたし、然れども刑事被告人は罪の有無未だ判然せざるを以て、之に對し強制的號令を掛け

●看守の進退

(典獄自らの之を爲すを要す)

看守は現今判任待遇にして、之を任免するは知事の職權ならん、然れども便宜の爲め知事より典獄に委任しあるは亦疑を容れざる處なり、依て之を罷免し又は處罰を命ずるか如きは固より典獄自らの之を爲さざる可からず、然るを往々勤務現程を以て其の罷免處罰等を第二課長に於て直に之を爲す處ありと聞く、果して信なりとせば其の權利は自然典獄に非ずして第二課長にありと云はざるを得ず、斯の如きは元來變則的事柄なるを以て瞬時も早く之を改めざる可からざる者と思考す

●上官と看守

(壓制を避けざる可からず)

今日は立憲の政體なり、假令獄内と雖ども我 天皇陛下の恩澤は普及せり、然るに獨り監獄に限り尙藩閥の遺風を存し課長其の他の看守長に於て、看守を見ること奴隸の如くなるときは其の下の上を視ること亦仇敵の如くならん、而して課長に於て斯の如くならんか、其他以下の上官亦之に倣ひ其の下を見ること塵埃の

如くなるは又理の見易き處なり、然るに往々監獄署に於ては上官の看守に對する其の壓制の甚しき口云ふ可からざるものありと聞く、元來監獄は軍隊と等しく風紀を維持し紀律的の運動を爲すは固より當然の事なりと雖も其の上官の上官を見る、宜しく愛憐の念勿る可からず、然るに若し上官の上官に對する愛憐の情は絲毫もなく恰も奴隸を使役するの風ありとせば、下官たる看守は至る處の陰所に於ては不平を唱へ、又僅少の俸給にても他に口を糊するの道あらば直に職を辭せんことに汲々たるに至らんことを恐る、唯妻子眷屬を有するものは止むを得ず怨恨を懷て其の日のみを送るが如きあらば是衷心より熱心以て職を奉ずるにあらず、今や看守の位置を見るに其の俸給少きにあらざ、其の位置は判任待遇にして勤績のものには年金あり一時金あり、又宿料あり服具料あり官給の服制あり、俸給亦九圓より十五圓に至る若し他官衙の備吏又は七八圓の特別判任官と比較せば豈少の差ならんや、然るに之を捨て他に目的を轉せんとするもの豈に故なくして可ならんや、今にして上官の上官を見る愛憐の待遇を爲さざれば益々監獄をして改良の光輝を放つに至らず

して愈闇黒に陥らしむるものなり

●看守の任免

(容易ならざることを要す)

看守同僚と不和若くば些々たる事柄よりして勢ひ辭表を提出するが如き場合あり、見れ一時の怒りにして前後を顧みざるの舉動なるを以て、再應説諭し辭表を却下せば再び辭職書を差出さざるのみならず、是に感激して誠實職務を盡すに至らん、然るに長官たるもの之を爲さず如何なる有爲の人物と雖ども、亦胸中に於て愛惜の意あるも一旦辭表の出づるあらば直に之を許可し、其の看守に對するの冷淡なる實に云ふ可からざるが如く、又些少の過誤失策或は他より金錢督促の如き書面到來せしときは、恰も塵埃を捨つるが如く直に免職するが如きあらば、其の任免の容易なる爲め監獄は常に新任看守を以て充たすに至る、新任看守は在監人の輕侮を受くるものなり、嗚呼此の如くして獄事の改良何に依て期す可きか、若し之に反し容易に採用せず亦容易に罷免せず、再三再四辭するも之を説諭し留任を勧告するときは其の恩に感激し、辭職の念慮を斷つに至らん、然れども充分他に目的あるものは假令斷念

せざるも其愛惜せられし恩に感て甲より乙に、乙より丙に其の監獄上官の美德を傳へ、監獄の風評をして益善良ならしめ看守の位置を高尚ならしむるものなり

●罷免後の看守押丁

(元長官に對する舉動)

長官に於て看守押丁を奴隸視するあらば至る所として不平の聲を漏らすに至る、若し一朝にして同盟罷工を催すが如きあらば實に容易ならざる事なるも、今日斯の如き意思を外部に發露するものなきは誠に監獄の爲め賀すべきの至りなり、一ひ監獄を辭するや甲より乙、乙より丙に監獄の惡評を傳へ、課長其の他の上官を敵視し途中にて遭遇するも帽を脱せず禮を表せずと云ふが如きあらば、是れ監獄の爲めに賀す可きことなるか、予輩は甚だ之を吊ふ假令辭職せし後と雖ども元自己の長官たりしもの豈に疎略して可ならんや

●前號正誤 十七頁上段三行「似」は「以て」、十七頁下段十四行「するのみ」は「すのみ」、十九頁上段十一行「き上表」は「き身表」、二十四頁下段十四行「消毒」は「消毒」、三十三頁下段二行「ルーアル」は「ルーアル」を、三十三頁下段二十行「ひ中」は「ひし中」、三十四頁下段五行「上六行」は「上段六行」の誤

英語欄

○前號所載の英文譯

看守、汝は如何なる罪を犯せしや

囚人、強盜よ、併し予は一錢をも得る能はざりしなり、さてもさても、予は餘程の不仕合者なり

○英文

The escaping of prisoner is a great loss of prison discipline.

逃走は治獄の最大曠職なり

○某伊、太利、人、女色に惑溺せし結果として思ひも設けざる罪を犯し入監の身分となりぬ、寂寥の餘り房壁に左の文字を書き付けたり、知らず何たる意ぞ、是れ英國監獄に於ける實話なり

惑溺者 鹿者 馬信 愛名譽

deluded fool believes love honour I am a poor deluded fool who believes in the love and honour of women.

翻譯

●來千九百年白耳義國ブリユツセル 開設の列國監獄會議議題說明(承前)

第三部 豫防制度

加地鈔太郎譯述

第一問 或る場合に於て感化院若くは其他の類似せる營造物の教育制に屬せられたる未成年者を國外に移住せしめり又は殖民的領地に定居せしむることを以て犯罪の豫防方法中に列することを要するか 若し然りとせば如何に之を企畫すへきか

(説明) 保護會社、不良及有罪少年感化院長等か屢經驗せる所に依れば數年間感化院に在りたる少年者か一たひ元の不良なる社會に復歸するときは折角感化院に於て習覺へたる秩序及勞働の氣風を失ひ自己の善良なる決心を忘れて不知不識罪過に陥るは常に遭遇する所なり英國に於ては感化院の生徒中其生活を變更せしむるの必要あるものは殖民地移住の制を設け之を殖民に仕立てたる後加那陀に發遣したり本國は此實例に倣ふの必要ありや及如何なる方法に依り此移住の制を定むべきや殊に殖民地を有せざる國に於ては如何して可なるやを知らむと欲するにあり吾人は英國の報告者に向て其得たる經驗上の教示及結果を與へられんことを特に希望するなり

第二問 諸國に於て犯罪に對する酒精中毒の認知せられたる影響如何

酒精中毒を制壓する爲め囚人一般に對し如何なる特別方法を採るべきや

(説明) 此二問は別に説明を要せず其必要は今更喋喋を俟たざるへし吾人は新なる意見書の提出あるへきこと毫も疑はざる所なり

(イ) 保護會社か此無料なる職業供給の事業に對し取るべき態度如何即ち會社自ら斯る設備を爲し之を管理すべきか又は單に其設備を獎勵し之に對する指揮の權を保持するに止むべきか

(ロ) 一面に於ては右の周旋所をして時期を過たすして出獄人に業を授けしめ又一面に於ては保護會社をして最も公正適實なる方法に依り速に被保護者に職業を附與し以て其過大なる希望を杜絶し不幸なる誤謬に陥らざるやう保護せしむるには兩者間如何なる約束を必要とするか

右の討論に於ては特に十八歳未満の男女少年者を僕婢又は徒弟に任込ましむることに注意するを要す之に反し總て代價を取りて業を行ふ所の周旋所並に或種類の社會又は團體(商事會社、手工會社等)のみの爲めにする周旋所は本問の範圍外に在りとす

第四部 少年者保護

第一問 未成年者を再犯者と看做し得るには如何なる條件を要せしむるか又再犯は未成年者に對し如何なる結果を惹起せざるを得ざるか

(説明) 本問は舊彼得堡の列國會議第一部第三問並

第三問 保護會社の事業は無償にて指教を與へ及職業を得せしむるを任とする周旋所に依り如何なる程度及如何なる條件に於て補助せらるゝとを得べきか

(説明) 經驗の証する所に依れば囚人出獄の際之を救護するに最も有効なる方法は一時でも永久とを問はず之に業を授るにあること明なり

是れ保護會社の最も困難なる任務なり若し此任務を十分に盡す能はざるときは囚人の將來に最も思ふべく悲むべき結果を來すへし

出獄人に一時業を授る爲め之を教育院に入る、は須臾の必要に應ずるの方法に過ぎずして永遠の効なきは人の皆知る所なり

近時に至り此出獄人救護の問題大に發達せるを見る即ち常に職業の動靜に注意し其需要及供給の媒介者となるの機關を設くるに至れり此設備の重なる點は専ら其行爲か無料なると關係者の爲り最も満足すべき方法を以て職業を可成的迅速に斡旋するに存す此制度は保護會社の爲り争ふべからざるの必要あるを認め從來の經驗に基き左の問題を深重に討議せんことを希望す

に巴里の列國會議第一部第一問を以て業已に喚起せられたるものにして幼年罪囚の再犯問題を研究し幼年者教育の目的と相合致する所の結論を見出さんとするにあり

第二問 假裁判又は刑の猶豫付判決を言渡されたる少年犯罪者に對し保護委員の干渉を義務的となすべきや又其干渉は如何なる方法に之を仕組むべきか

(説明) 條件的裁判及其他類似的の制度の重なる目的は初犯者にして引續き品行善良なるときは刑の適用を猶豫せられ而かも或る條件に依り裁判の全然消滅すべき途を開き以て其試験期中其善良なる決心を鞏固にするに在るは別に疑なき所なり

幼年囚をして犯法の所爲に陥らしめたる重なる原因たりし或る有害の影響より斷へす免れしむること能はず且つ之に對し教育的感化力を及ぼすこと能はざるに於ては決して其改悛の目的を達すること能はざるは經驗の證する所なり

是故に左の問題を深く討究せんことを希望す

(イ) 如何なる方法に依り十八歳以下の犯罪者にして條件付裁判又は類似の處分を受けたるものゝ爲り特

に改善の目的を最も有効に實行し得べきや殊に此者に教育を與へ職業を教授することは希望すべきことにあらざるか

(ロ)此點に關し國及其機關に如何なる職任を附すべきや又如何なる職務か出獄人保護會社に依り有効に充行せられ得べきや

(ハ)保護會社の監督に屬せしむることは義務的となすべきや

(ニ)若し或國に於て道徳上放棄せられたる少年者の徳治的教育(感化學校)か已に法律を以て規定せられたるときは如何なる方法に依り是等の問題をして之に影響せしむべきか

第三問 感化院若くは少年者に供用せられたる他の類似的の營造物に於て如何なる方則に依り職業教育を編成するを適當とするや

(説明) 本問は感化院慈惠院等に於て職業教育の合理的組織を指導すべき規則を陳へしめんと欲するにあり而して其目的は生徒の道徳教育と同時に其滿期後正實に生計を營むを得べき職業に就くの能力を與へんとするにあることに注意するを要す

(終)

●前號正誤 廿八頁上段廿行「食らまんす」正「食らんとす」の誤

質疑 應答

●質 疑

●第十二號

看守の職務は戒廳に從事すべきことと或る規則にて敷見したるものとありしが看守をして書記の取扱ふべき事務に從事せしめ事務員同様の服務時間と與ふるには規律正なる監獄法規上差支なきものなるや若し差支なきものならば事務員同様の服務時間に從事するものに假令看守なれば看守の職務は日勤と雖も囚人起床に出頭し閉監又は臥牀後退退する看守と同一に給與金を支給するは頗る權衡を欠きたるや如何

●第十三號

前項假令書記の取扱ふべき事務にあらざるも看守に事務員同様の昇降時間と與ふるとは出來得べきものなるや如何

●第十四號

條約實施期限も最早目前に迫まれり監獄の藥劑調合に從事せしむる者は相當覺狀ある者をして爲さしむるは正當ならん經濟上少しく藥劑調合に經驗ある看守をして從事せしむるもの當否如何

●第十五號

審判下屬に實に海給官吏の悦ぶべきとは皆人の知れる處なり然れども悉て考ふるに拜命後遂したる欠勤もなく二三年も勤續して漸く十圓給を支

雲 山 生

雲 山 生

雲 山 生

第四問 少年犯罪者并に不良少年者若くは單に道徳上放棄せられたる少年者の合理的教育を保障するには營造物に入る、の制と修業徒弟と爲すの制若くは家族に寄宿せしむるの制とを混用するを適當とせざるか (説明) 從來是等各種の少年者の特別な營造物に於ける教育制度は正實なる家族に預入る、の制度と相對立せり家族制度の利を唱ふる者は少年者をして營造物即感化院等に久しく在留せしむるは之をして二たひ其社會に復歸せしむるの適當なる準備にあらす然るに家族内の教育は此點に於て最大なる効驗あるへしと思惟し又營造物論者は是等の子女を預らんと望む正實なる家族世間に乏し營造物を設くるは實に止むを得ざるなりと主張す本問は則ち此二制度を混用し得ざるや即ち最初は營造物に入れ子女をして秩序清潔及勞働に慣れしめ此準備の階段を經過したる後之を善良なる家族に托するの利害如何を研究せんとするにあり(之を托すへき家族を必要の數だけ求むるは左まで難きにあらす)

此折衷制度は北米合衆國及哇馬に於て業已に應用せられ又聖彼得堡の列國會議に於ても論議せられたる所なりと雖も本問は二たひ研究するの價值ありと信

給せらるる者ありと假定せんに爰に九圓俸に拜命する者あり宿料一圓五十錢を得るものとすれば合計十圓五十錢位の借家賃を支拂ふべきは二三年勤續せし者も其得る處の金額權衡を失したるや如何して宿料は實費支給するの可否如何(其甚敷者に至りては官舎居住を拒むる者あり)

●第十六號

冬服及び外套は二ヶ年と定められたり實際者用する者の語に依れば務の如き二ヶ月も着用して修繕を加ふるものあり又外套は少しく強雨に當ては通雨する用品の如きものあり是等の品を二ヶ年とすれば服裝姿勢上に大關係を來すならん姿勢服裝正しくすべしと毎度訓示する監獄あり就ては其法の有無如何

●第十七號

獄務規則第十三條に賣動看守の出動時間を規定しあるにも拘はらず第二課に於て戒廳以外の事務に從事する看守にして普通官廳の八時又は九時に出勤せしむるものありとすれば違法にはあらざるや如何

●第十八號

何れの監獄に於ても殘飯殘菜は人民に拂下ぐるの例なりと聞きしが該品の拂下を受けたる者は相當の利益を得て他に賣却し其賣却を受けたる者貧民なれば口糧に困難する者多ければ望みに任せて賣却するも可なるが如きも拂下を受けたる請買人は該殘飯殘菜を清水にて洗滌して菓干商店に賣却(干飯にして)菓干商店に於て之を粉にして諸雜菓子に混用するものとなりしが經濟上監獄に於て拂下ぐるも可なるや如何と雖も是を公商の菓子類に混入せられたれば監獄の名譽を毀損するの憂なきを保てず依て該殘飯を人民に拂下す監獄内に於て使用するの眞法なきや如何

雲 山 生

雲 山 生

雲 山 生

●應答

●第一號千外散士の質疑に答ふ

津輕 芳 風 生

因徒の製作品を販賣するは敢て營業に類する嫌なきものと見料す其事由は監獄製作品の販賣は自ら順序あり方ありて普通一般の商賣の手に属し單に射利的主義と趣を異にし所謂一般官衙(農商務省管轄内)には往々あり生産物拂下と一班にして妨げなかるべし又勢ひ販賣せざるを得ざるものあり若し營業の嫌ありとせば監獄工業運用を塞ぐものなり故に嚴の其節の訓令に基き普通工匠商賣の自警上妨碍とならざる體常に注意を爲し販賣するときは奚ぞ營業に類するの嫌ひあらんや

●全上

西村 松次郎

本問の如き行為は營業的に類するの嫌なき不能故に受託販賣者を指定して其行為を成さしむるも然らざれば一般販賣入札の方法を探るの外なし余置に可及的監獄需用の物品を製作せしめ其他は官府の事業其需用品製作に従事せしめ民業との競争を防ぐ道な求められんとを望む

●全上

小 文 生

監獄に於て因徒の製作品を販賣するは其行為營業に類するの嫌ありとの懸念一應尤もその目的が抑も營業とせば營利を目的とし其業を爲すに有り故に慈善其他の事なるが如くも營業とせば營利を目的とし其業を爲すに有り一視す可からず監獄署に本來の職責を以て因徒に作業を命ず其製作品を販賣するは必然の結果のみ實業者が懸念する点は官廳として商取引を爲すは官廳の威嚴に關係なきやと云ふにあらん然れども官廳が當然の職責の結果其物品を處分するは營利の目的にあらざれば決して威嚴を損する

と云ふべからず現に政府は鐵道郵便の事業を爲し其他各官廳職務執行上得たる物件を賣却するの例は不詳況や監獄が因徒に作業を命ずるは主として彼等の自活の途を授くるにあらざりや去れば如何に彼等が製品は世間に需用せらるゝや又如何に彼等が技能に熟しあるや世間に紹介するは彼等放免後の事業を保護する爲め寧ろ必要なりとす故に製品販賣は其働所期日方法を嚴明にし司獄官吏之れを執行する最も適當の事と信す

●第二號霧岳居士の質疑に答ふ

津輕 芳 風 生

十二歳未満の幼者を懲治場留置の言渡を檢事より裁判官に請求するは一の公訴に外ならざるべしと信するなり其請求するまでの順序手續たるや被害者の告訴告發等に依りて被告事件を受理し檢事に於て審問の末情狀に依り請求するは一般起訴と何ぞ異なるらんや語を換て之を言ふときは司法事務中の行政事故と云ふべし然れども公訴にあらざれば其名稱を何と稱すべきや余置の判斷に審む處なり懲治言渡者に對しても現今上訴を許し居るものなり果して然るときは一種の公訴にして單純なる行政事務とするときは同一上級法衙に上訴する事能はざるものならん是を以て稽ふるも公訴の一部と推察する所以なり

●全上 三池 炭 山 生

本問題は十二歳未満の幼者に對し懲治場留置の請求をなすに公訴なりやと云ふにあり余は之を以て公訴にあらざると論するものなり十二歳未満の幼者は刑法上無責任者なり無責任者に對して公訴を提出する期はれなし只た之れば社會の安寧上本人の保護上嚴重なる監督の下に於て強迫的教育を加ふるものにして決して刑罰課す可らざるものなるを以てなり

●全上 魁 舟 生

左の斷案を下すに因附せざるなり 一 最初の懲治場留置の言渡は第一審の判決なりとす 論者或は曰はん懲治なる者は固く之れ行政處分に屬するものなるを以て刑罰と同一視すべきものにあらず故に裁判所に於て懲治場留置の言渡を爲すに單に行政命令令たるに過ぎず而して公訴の目的たる犯罪を證明し刑を適用するに能あるを以て若し檢事か始めより公訴の意見を有し懲治場に留置すべきものなりと起訴したる事件は目して以て公訴と稱すべからず隨て又本案に對して下したる裁判所の言渡は判決と全一視すべきものにあらずなりと論者の言或は一理なきにあらざるが如しと雖も苟くも社會に犯罪の發生せしとを認知し若くは犯罪ありと見料したるときは檢事は必ず其証憑及び犯人を捜査し加して之れを捜査を終りたるときは犯罪の種類に依り起訴其他相當の手續を爲さるべからず而して其結果有罪たるべきか無罪たるべきか將た不論罪たるべきか懲治場留置の言渡なるべきかは裁判官の判決に因て定まるものなるが故に其起訴の當時に於ける檢事の抱持する意思如何は審も問ふ所にあらずなり且夫懲治は刑罰にあらざると雖も既に立法上の必要に依り之を刑法に規定し裁判所の公廷に於て正式の手續を履行し之を言渡す以上は單に立法上の理由に拘泥し行政處分なるが故に判決にあらざりとす如きは益し解釋の正鵠を得たるものと云ふべしを得ざるべし幸に上來の說をして大誤ならしめば則第二項以下は左の如く解せざるを得ざるなり

●全上

西村 松次郎

懲治場留置は處分のして其性質行政處分に屬するものなり決して刑罰を以て見る可きものにあらざり故に純然たる刑事訴訟にあらざるや勿論なるも刑法適用を目的とするものなれば一の刑事訴訟と看做し一般に刑罰法の適用を請求するの職責ある檢事より地方裁判所に向て其命令を請求するものにして決して純然たる公訴にあらざるものと信す

●監獄協會雜誌第百廿一號質疑第三號(洋々 散士君の提出) 解答

在 山 口 弓 爾 生

幼者及病弱者等の不諭罪者に對し其情狀に依り之を懲治場に留置するを得るは刑法第七十九條第八十條第八十二條等に規定する處にして一は國家が其父母に代つて施す所の強迫的教育の目的に出で一は豫防警察上の目的に基く處の行政處分なるべしと雖も等しく是れ裁判所の公廷に於て正式に宣告せらるべきものなりとす而して其の事件たるや必ず檢事の起訴若くは豫審判事又は上級裁判所より事件を移す裁判に因り其管轄に屬する犯罪にして正當に受理したる公訴なるべきを要す如何とせれば裁判官は公訴の起らざる事件に對し判決を與ふるべきを要す如何とせればなり既に裁判所は公訴を受理したる結果として不諭罪者なることを認め之に對し懲治場留置を言渡したる場合に於て予置は本問第一項に對し

三 懲治場留置の言渡には確定期間あり 三 全上の言渡に對し檢事及被告人は上訴を爲すを得べし 前項の理由に對しては事理分明特に疑々を要せざる所なるべし何とせれば等しく是れ判決の效果にして刑の言渡を受けたるものに就ては上訴を

爲すを得べきも懲治の言渡を受けたるものに就ては之を爲すを得ずとの理由を發見する能はざればなり予輩が井蛙の見敢て自から操らず解答を試みんとするもの偏に大方の高教を仰ぐんと欲するのみ先輩諸君願はくば明教に吝なるなくんば幸甚

津輕 芳 風 生

一 最初の言渡は第一審と云ふを得るならん
 二 懲治場留置の言渡に確定期間ありと史料す
 三 檢事及び被告人は上告を爲すことを得るならん
 理由本問に對し既に問者及び江潮諸賢は悉知せられしならんが過る明治二十八年九月十三日神戸地方裁判所檢事正請訓に對し今日電報訓令左の如くなり

本月十三日電報請訓の件懲治場入の處分に對しては上訴を許すべきものなり

右の訓令今尙消滅せざる限りは前記解答は不當ならざるべきも或は陳腐に屬しあれば本問并に第二の應答は俱に牛文の價値なきものなり識者笑ひ賜ふ勿れ

三池 炭 山 生

●全上
 本問題を決するに先づ懲治場留置は刑罰なりや否やと云ふことに付き討究するを必要とす余は懲治場留置は決して刑罰處分にあらずと信す故に此言渡に付ては普通刑罰者に對するが如き規定を用ふるの必要なしと論ずるものなり

魁 舟 生

一 懲治場留置の言渡は第一審の判決と云ふ可からず然れども第一審の處分と稱するは差支なし

二右處分の確定期は刑の確定期と同一なり
 三懲治處分に對し檢事及び被告人は無上訴(通常上訴と同一視す可からず)を爲し得べし
 懲治處分は其性質行政警察の目的とする所之を刑法に規定し司法裁判所に其處分を委ねたるは犯罪行為に基きたる事件の處分に屬すればなり而して此の處分に對し上訴を訴すは原則として三審制を採用したる我刑事訴訟法上右處分に關し不服を申立つるを得ずとの反對禁止なければなり已に反對禁止以上上げ公訴に關する條項を準用して不服を申立て其權利を伸張せしむるは寧ろ刑事訴訟法に適したるならん

●全上
 西村 松次 郎
 第一 最初懲治場留置の言渡は其性質行政處分に屬するも刑法適用を目的とするものなれば判決と云ふも不可なきに似たりと雖も命置は第一審判決と云ふは單に懲治場留置の命令と云ふ方穩當と思考す是れ刑罰的の言渡と其名稱を異にするを適當と信する所以なり
 第二 懲治場留置の言渡には確定期間なし則ち言渡に據て直に確定するものと信す
 第三 懲治は國家が父兄に代り監督の權利を實行し唯社會の平和を維持する点より教誨感化以て其行狀を改悛せしめんことを以て強制教育にして決して司法的處分に非らざる明顯なり從て刑の執行にあらざるや又論を俟たず刑は裁判確定の後にあらざれば執行することを得ずとの規定あり天人の自由は貴且つ重故に國家と雖も適正の理由あるにあらずれば其自由を奪ふ能はず於基督救済的の上訴の制あり又斯の法理に因て裁判確定後に非らざれば刑を執行せしむとの定則を生ず若し懲治者へも上訴の權ありせば上訴を設くる法理の結果たる言渡の後にあらざれば執行

し得ざるは自然の道理なり然るに懲治は言渡に據て直に確定するものなり確定の言渡し夫れ何に據て効力を發し得んやとの議論を生ずるも懲治は刑罰にあらざるを以て普通刑罰に從ひ上訴の權を有するものとす豈獨り懲治而已救済的の途なきの理由あらざらんや況や立法者の意思に於てをや

●前號正誤 四十二頁上段五行「假令」は「許欺」 四十三頁上段十二行「然ざれば」は「然らざれば」 全二十行「なり」とば「なりませば」の誤

廣 告

從來各地方の諸君より本誌へ玉稿御送付有之候處或は草書にて記載し或は塗抹等致し爲りに文字鮮明ならず之が爲め遺憾ながら或は掲載方遅延となり或は止むを得ず沒書せざるを得ざるに至るを以て將來寄書規程左の如く相定め候間之に基き玉稿御送付相成度候

寄書規程

一 玉稿は罫紙白紙を問はず半紙又は美濃紙の内を以て一行假名共二十四字詰(句點は一宇)と爲し字体は楷書にて鮮明に記するを要す

一 一文章の表題の次行即ち本文の前に姓名(又は號)を記載し一文章毎に別紙に認むるを要す質疑應答に係るものと雖も一問一答毎に別紙に認むるものとす

寄 書

●囚徒教誨の主義に就て

在東京 洋々 敬 士

竹輪生なるもの囚徒教誨問題と題し暫て日本主義で雜誌第二號及び第六號に於て、監獄教誨の主義に就て詳細論述せられたり、蓋し竹輪生は同雜誌編輯人竹内楠三氏の異名同人ならんと察せらる、敬士該文を一讀したるに鞭撻尾質問を奏する能はざるを以て愛に之を敬愛せんことを欲す、而して氏は明治廿二年より廿七年迄の囚徒人員の統計を掲げて曰く現今の監獄は感化の最大の目的を達する方法と認められたる者ならざるはなし、其の中種極端の方法の最も重要なるものと目せらるるは教誨、即ち宗教的教化によりて囚徒の良心を促さんとする方法なり、されど今日監獄に行はる、教誨方法は果して有効なるや否やとの質問を掲げロンプアロー氏の先天的犯罪に論じ、悔悟運善の微妙なくして再び罪を犯すものを一罰責するに過ぎずや、精神上大に相違する點あるものを發見し得るならん、果して此等の人が常人と相違する點ありせば、教師が常人に對すると同一の方法を以て之を感化せんとするも決して益なかる可し云云と一語に論じ果して先天的即ち常性的犯罪人なるものありせば如何なる方法を以てするも之を改眞することは不能の事實なり、然るに君は常人に對すると同一の方法にては不可なりと云ひしのみにて、他に之が眞方法を掲げず現今常性的犯罪なるものは必ず存在するや否や未決の問題に關す、然るに斯の如く論理倒置して論斷するが如きは蓋し早計に

を要せざる所なり、斯く云ふべきは論者言はん、再犯以上の在監者の多きは如何ぞ、嗚呼何たる言ぞや抑も再犯者の多きは社會の責任にして、再犯者の少む可きにあらず、社會の責任國民の義務として、犯罪ならしむることを努めざる可からざるにあらずや、开は借て置き再犯以上の如き習慣犯者のみに對し、不定期刑を採用すること云ふが如き、折衷説は生の探らざる所にして、生は重罪と輕罪とを問はず、又犯罪の種類をも問はず、不定期刑として犯人自新するに至る迄出監せしめず、自新すれば直に出監せしむること云ふ事は、眞に實際に適切にして且つ理論にも適ひたる觀と愚考す、蓋し不定期刑を採用するの急務なるこそ斯の如くなれば、局に當るの士は須らく刑罰の目的を誤らざる權注意あらんことを冀望す

附言、忠義生は予の信友なり頃日、本稿を草して予に送付せられたり予之を一讀せしに文章流暢論理明確なるも其の論旨に至ては予と正反對の地位にあり元來吾は刑罰の目的を以て犯人自新のみを愚考せらるるを以て如何なる犯罪人にも改過進善を促すれば刑罰の目的を達したるものと愚考せらるるを以て凡ての犯罪人に不定期刑を採用すること云ふに至り是れ予と根本的刑罰の目的を異にし、其の結果たる不定期刑の可否に就て議論の別、は固より惟も處にあらず予は刑罰の目的には犯人の自新を社會として長懼せしむるの(社會人民刑罰を長懼して罪を犯さざらんことを自ら注意するに至るを云ふ)二個あることを信す故に社會をして長懼せしむる爲め命令改過進善するも人を捕殺したるも如きは死刑に處せざるを得ずと云ふ所以なり然るに君は故ら人民をして長懼せしむるに及ばずと云ふと雖も予は故らに長懼せしむること云ふにあらず社會自ら自然に刑罰を長懼して罪を犯

さるに至るは即ち刑罰の目的中に包含するものなり若し之をなしも刑罰の目的にあらざるを以て社會が長懼せざるも可なりと云はば犯罪人は益増加するに至る若し斯の如きに至るも會不可なしとする數刑罰絡の目的は犯罪人を減少せしむるにあり若し重罪を犯すも重刑を科せざれば社會自ら長懼せざるに至るを以て從て犯罪人は益々増加するにあらずや是れ予が不定期刑に就て折衷説を唱ふる所以なり一言附記して君が反駁に答ふ

●東京集治監を觀る 在東京 洋々 散士

散士本月三月六日東京集治監を觀んことを、曠て散士が知友に依て典獄長屋又輔君に紹介せられんことを依頼し置きたり、蓋し當日は日曜に屬せしを以て近郊の梅花を探り併て同監を一覽せんことを豫期せしを以てなり、然るに此の日止起霧を拂せば晴雲憐憫日光を覆ひ、天將に雨降らんせり依て一旦中止せし處午前十一時頃より俄に快晴となり、即ち驅起驗臺の寓居を出て萬世橋より鐵道馬車に乗じ上野に至り同所より腕車に乗じ、隅田川の upstream 住大橋を越へ漸くにして東京集治監に達す同監は府下南葛飾郡南綾瀨村綾瀨川の畔にありて、赤壁の煉瓦を以て周圍を圍繞し其の中に看守舎宿舎あり典獄其の他の吏員の官舎あり、散士は官舎に就き刻を長屋典獄に遇す、典獄典獄因數師場に出席せんが爲め之が準備を爲し居りたるを以て、監獄公廨所に面會せんことを約し散士は一歩先きに公廨に至り、既にして長屋民來りしを以て暫く獄務上に關し相談じたり、兵は會て兵庫假留監典獄として令聞高く後該監の廢止せらるや、富嶺集治監に轉じ石澤監吾兵の北海道に轉轉するや遂に兵の調轉する處となりたり、兵は斯の如く監獄に於ける經歷は尤も長

きに涉り從て其の職務に曉達すること云は云はすして明なり、既にして看守長十河政之氏の監督にて工場及び監房を一覽したり、然るに此の日や既に午後にしてを以て、囚人は數く罷役し教誨場に娯樂せり爲めに囚人服役の實現を目撃すること能はざりしは尤も散士の遺憾とする處なり同觀の作業は主として煉瓦製造工にして該監の如き六ヶ所あり、其の形或は圓形なるものあり、或は長方形なるものあり長方形なるものは新築を以て圓形なるものは石炭を以て燃焼し居り、而して火氣は晝夜之を絶やさずと云ふ蓋し一度火氣を消滅せしときは薪炭百餘圓を費すに非れば新に點火することを得ずと云ふ、而して晝夜技手の如きもの立附せり、今同觀工業は煉瓦製造を除くときは鍛冶工、石工、木工、春搗工、瓦工、木工、管線、運搬及び機工、裁縫工等に過ぎず、然れども是等の作業は凡て規模狭小にして煉瓦製造工に従事すること能はざるものを使用するもの、如し、而して該監内には堀割を以て綾瀨川に通じ舟楫の利を以て四方に煉瓦を運轉することを得る、故に水利の便尤も該作業に適す、散士は冀望す益該工業の規模を擴張せられんことを、何となれば現今煉瓦の需要は東京市街に於て要する所日々數万を下らざる可ければなり、以上各工業を總括し能て監房の一覽せり、該監監房の構造は扇形にして上各工に分れ、監房の周圍煉瓦壁を以て圍繞せり、監房の窓前後は二個あり前なるものは扉の上にあり故に高さ凡そ一間半後なるものは二三尺の高さにあり、而して扉の如き窓あるを以て一目明瞭に監内を觀察することを得、天井の如き板にて覆はざるを以て從て空氣の流通光線の射入等尤も完全なるもの、如し、散士等て異國監獄監房内を見しに何となく薄暗きが如き感覺を生じたり、然るに此の獄や房内尤も明るくして毒も斯の如き感覺を生ぜざりき、刑監に至り毒刑生木村善兵衛

に就き種々の患者表を一覽せり、此の日に監囚徒千一百一十一名而して重病者十六名輕病者三十五名計五十一名、工場にて診察を受けたるもの七十六名なりき、死亡者の如き昨年於て四十九名本年は未だ僅々八名に過ぎず、而して死亡者千人に對する比較表なきを以て之を知る能はざれども、重罪囚徒に徒刑囚を拘禁する監獄にして斯の如く病者及び死亡者の少きは蓋し衛生上の注意周到の致す處なり、彼の二千餘人を有する東關監獄の死亡者二百名に比較するときは如何に死亡者の少きやは一目瞭然たり、散士以爲らく煉瓦監房の構造如何に依ては實に囚人の健康身體に害を及ぼす可きものなることを確く信す、此の獄の煉瓦監房たるや自然に衛生上に適合するものならん歟、既にして教誨場に至りし處囚徒四百名程一様に腰掛に宛れり、正面には圓陀の畫像を掲げ教誨師佐々木剛氏熱心に宗教的教誨を爲せり其の教誨たるや空海上人の四句の偈を掲げたるいは四十七字の和歌の意義を讀み併て日清戰等に於ける眞宗信者たる木村大尉の詠じたる漢詩を引き譯々として安心立命の點を説明し居られたりき、散士等て本誌第八十號に於て教誨に於て有功ならしむるの方法如何との論文を掲げたことありき、其の中に重罪囚には充分宗教的教誨を施すの可なることを論述したりしが、今や佐々木教誨師の如く處尤も散士の意を得たり、何となれば同獄の囚徒は凡て重罪囚囚を以てなり、然れども此の宗教的教誨にして地方監獄に於ける短期刑囚多き處囚數に於て之れを爲すことは尤も散士の不可とする處なることも當時論述したり、是より浴槽及び飲事場を一覽したり此の日の染針及び他に押座の二品あり散士之を試食せしに甚だ佳真なりし蓋し社會に於ける中以下の食物に匹敵するならん、以上一覽したる處に依れば同獄は衛生上其の他規程等一般に完全なるが如く處せられたり、只散士の遺憾と

第三の如きは未だ我國に於ては民間に於ける此の種の事業なからんれども近來に至り各地に保護事業の設立ある時とせられるなり却就以上懸念する處は形象上の規定にして是より其仮出獄の實質上より觀察を降さんぞ欲す圖を以て示さば

- 第一 (看守に關するもの)
 - 一 罰則及び改過に關する事項
 - 二 親族及び改過に關する事項
 - 三 教諭及び教育に關する事項
 - 四 作業に關する事項
 - 五 衛生に關する事項

看守者の名譽の存する所心理學若くは刑事人類學經濟學法律學道德學倫理學等の高等教育の思想を要する點に在らざる

- 第二 監獄を看守し常に懲るの状なきもの
 - 一 常に懲罰を奉養せんとするの志最も厚く且つ他日自活の道に就くべしと認むるもの
 - 二 作業に補助し常に衣食費を償ふに足るの工錢を得るもの
 - 三 四角の改心の狀顯れ他因の標的となるべき善行あり

高等司獄官の觀察

- 第三 賞表の授與
 - 一 罰則を遵守し
 - 二 工業に勉めるを以て
 - 三 改心の狀あるを以て

之に依て之を觀察に據る看守其他の看守の双肩に負ふ處の責任は一号表より觀察して實に國家の名譽の職たることを言はすして以て知る可きのみ其妙實の存するに刑法草案第卅條以下第三十六條に於ける規定は假出獄

- 第四 結果假出獄
 - 一 刑法第五十三條に適合するもの
 - 二 罰則を有するもの
 - 三 刑法附則第三十八條により内務司法兩大臣の許可を得たるもの

壹官に千百のみならんや、其の骨格及び人相の如何に依て直に或る犯罪の性質を具備するものと云ふに至れば俄に信す可からず況んや此の學說は現今未決の問題に屬するに於てや、依て輕々しくも囚人骨相の如何に依て直に囚人の所遇を異にするが如きは散士等の堅く排斥する處なり、然るに本誌第百十三號に於て丸賀樂儀氏なるもの看守に骨相學の必要を感ずてふ問題を掲げて骨相の如何に依り、其の刑の執行を異にせんことを論述せしが如きは蓋し尙早きに失するならん歟、是等の事は専門刑事人類學者に一任し加日確乎不變の原則を發見するに至り、初めて骨相の如何に依り其點に付き刑法の改正及び囚人の所遇を異にするも致て不可なしと雖ども今日に於て、斯の如き困難なる未決問題を以て直に看守に對し骨相學の必要を云ふの事を論ずるは蓋し輕疎に失するものと云はざるを得ず、丸賀氏以て如何と爲す聊か感ずる所ありて此の稿を草す云爾

附言、本稿刑事人類學に關する事は皆て檢事古賀樂造氏の講述せられたる處に依る、次に婦人にして三白眼若くは四白眼の者は殺人の相なりと云ふ事を散士嘗て或る人相家より聞きしことあり又彼の果鴨監獄署にて同囚を殺傷せし墨漢山崎太郎なるものは嘗て或る骨相家同監獄署に來て之を一見し殺人の相ありと答へたる由散士が先輩中村藤君より聞きしことあり筆者の爲め爰に附記す

● 慣習犯者は果して救治の途なき乎

青 峰 生

刑事人類學の發達が愈々其度を進め或る一種の犯罪人は到底人力を以て懲罰救治し得へからざる絕對的不治のもの即ち先天的犯罪人なりこの確實なる論據を得るに至りて今日の所謂慣習犯者其範圍内に在るもの

と相對し一つは司法官の觀察に一つは司獄官の觀察に存するは其の功果に至りて看守の名譽ならずや

● 刑事人類學に就て 午 外 散 士

刑事人類學とは人の骨相に因て犯罪人の種別を定む可しとの學說なり、此の論の主唱者は伊太利に於て刑事醫學家ロンプロツ氏なりとす、氏は先天的犯罪人には團體の組織上に著しき變體あり、又骨格の上にも異狀あるものと爲し、特に之を証明せんが爲め犯罪人の骨相を會觀すること、吟ん二千有餘、然るに有名犯罪人の骨格組織は常に普通人と異にして、或は或る一部に於て欠損する所あり、或は或る一部に於て特に發達する所ありて大に骨格組織の平均を失するものありと論ぜり、此の論據果して正當なりとせば現在此の種の骨格を備ふる人類は他日必ず罪を犯すものなるを以て、其の未だ罪を犯さざるに先づ速に之を社會から追放し、因て以て社會の安寧秩序を維持するを得可しと云ふの結果を生ずるに至る、然れども斯の如きは到底實際に行はれ得可きにあらず、彼の司直の神像は布を以て兩眼を掩ひ右手に劍を持ち左手に秤を持ち以て裁判の公平を保つことを表はせり、蓋し兩眼を掩ふ所以は容貌の美醜に依て自然愛憎偏頗の念其の間に生じ、公平の判斷を爲す能はざるに至るを以てなり、我國に於ても彼の有名な板倉内膳正は襖を隔てて訟獄を聞きしと、之に反し獨り名奉行大岡越前守は人相を見て直に犯罪の有無を識別せりと聞く、彼の刑事人類學に所謂骨相に依て先天的犯罪なるものを知る事を得るとせば、大岡の人相を見しが如きは實に刑事人類學に曉識せしものと云はざるを得ず、然れども造化の妙巧は實に神變不可思議にして或は一手三足の人類を出だすことあり、或は二頭一身の赤子を生ましむることあり況んや骨格の組織に於てや、造化の欲する所千態萬狀

なりとせば慣習犯者の救治を嘆々するが如きは實に無妄のことたらざるを得ず何とせば寧ろ遠に之を撲滅するに若くざるを以てなり然れども今日に於ける刑事人類學の發達は未だ以て容易に斯の大問題を決すへきにあらず若し夫れ假りに刑事人類學の發達上或る一種の犯罪人が絕對的不治のものたるの斷案を下すを得るに至るとするも決して今日の所謂慣習犯者と稱するもの、全体が悉く其範圍に入るべきにあらずや論なきを以て慣習犯者は未だ適に救治の途なしと速断するを得ざるなり、慣習犯者は固之れ一個の初犯者が漸次其犯罪上の歩武を進め來りたるものにして一たびより二たびし二たびより三たびと累進的に犯罪の觀念を高め犯罪の手段を巧みにするに至り而して國家が其發現を以て國家の生存上に一定の危害を與ふるものとし之を免除するの必要條件として科するに至りたる刑罰なるもの、峻嚴を毫も意に介せず刑罰執行の間に在りて極も一個の常行的觀念を作り身体上の痛苦は勿論論執行に於ける痛苦を感ずることなく酒や煙草に於て感ずる所なきが如く更に長怖の念なく羞恥の情なく恬として顧るの狀なく吟んぞ樂主義を懷き職職なる堅牢を以て自由なる社會に比するが如きもの果犯の結果として其慣習に久しく馴致せられたるに因るものなるへし然れども慣習は後天の問題にして固より先天的に其性質を具ふるものにあらずを以て如何に久しく慣習に馴致せられたるものなりと云ふも慣習は既に後天的のものにして此の後天の慣習に因するものなりとせば其矯正の方法を一變し其處遇の途を一新する等適當の方策を講し徐らに其本源に歸服せしむるに務めなれば後天幾多の日月の間に造成せられたるも習は漸次に剝離して遂に全く慣習に因て作られたる幾多の犯罪の諸觀念を根本的に消除し得て真正なる本源に復歸するに至るへし

慣習犯者の救治を論ずるに當りては先づ其基本に遡て之れを推究せざるべからず基本は何ぞや即ち國家の刑罰權はれなり國家は何故に刑罰權を有するや而して又刑罰權は如何なる範圍に於て行はる、や是等の問題慣習犯者の救治を論ずる上に於て直接に關係なきが如きも而かも是等の問題に就て概論するにあらざれば救治の問題を論ずる能はざるなり

抑法律は國家的現象の一にして國家的現象は社會的現象の一なり而して社會は人類的事實の一にして人類は萬有的現象中生物的事實の一なり果して然らば國家を支配するに關する原理は即ち生物支配の一般の原理と其根據を同ふするものと云ふべし生物一般に亘る支配の原理とは何ぞや即ち適者は生存し不適者は亡ぶるの義之れなり生物一般支配の原理が果して適者生存不適者滅亡にありせば國家の生存條件も亦遂に存せざるべからず而して法律は即ち國家の生存を保持するの強力なり斯の如くなるを以て國家の生存に危害を與ふるものは國家の生存條件を棄るものなり故に國家は國家の生存上より其生存條件を棄るものを強力を以て淘汰せざるべからず而して國家の生存條件を棄るの所爲は即ち犯罪なり換言せば犯罪は則ち國家の生存を害するものにして國家は之れを絶滅するの權力を有せざるべからず遂に於て國家に刑罰權のある所以なり

以上の如く刑罰權は國家が國家の生存を保持するに於て必要なる條件なり而して其刑罰權は國家が其生存を保持するにあるを以て隨て其刑罰權の範圍も亦國家の生存を保持するに必要なる限度に於て存せざるべからず其必要の範圍を越へて其限外に涉るが如きものは即ち國家は刑罰權を濫用するものなり之れに反して其生存を害するの程度の深且つ大なるものは隨て亦之れに適應するの範圍を擴張せざるべからず刑罰權の範圍は

格上の關係より或は家族的の關係より來る等種々ありと雖も而かも個人的原因即ち其性癖等に因して來るが如きものは極めて稀なるべし其原因にして斯の如くなりしとせば累犯者にして恰も一個の關係的不治の犯罪人たるが如き觀を呈するに至りたる狀態も亦之を推究するを得べきなり夫れ一度犯罪したるものは信を社會に失し社會より排斥を受くるのみにて一も保護を受くることなきんば依て以て生活を繋ぐの道なく依て以て立つの途なき此むを得ず再び犯罪を犯し刑罰に關るゝなり斯の如くにして社會に立つの途を失はば一回より犯罪の形象の慣習を馴致し遂に一個の慣習犯者として犯罪を以て終生の業と爲すに至るもの實に慣習犯者中の大數たるべきを信するなり果して然らば社會は單に慣習犯者を排斥して以て其據を失はしむるが如きは其道を得たるものと云ふべからず何となれば之れを保護して其民に復歸せしめ安心を得る之れを排斥して進んで其非を遂げしむるの危険と反比例をなして以て危険の度の深きが故なり是を以て社會は之れが救治の方法として最も完全なる保護法を設け漸次に之れが回收を努むべきなり而して其方法の如きは所謂世の保護事業と同一にして之れが組織の方法を完美にせざるべし吾人は茲に唯累犯者と雖も決して救治の方法に關しては自ら別問題ならざるを主とするものなれば之れが救治の方法に關しては自ら別問題ならざるを得ず若し夫れ此問題に就ては他日更らに稿を起して論ずる所あらん

●監獄衛生主事を置くの必要

森山麟二郎

概約改正内地雜居の門戸既に開くに垂ん々として監獄改良の必要漸く世人の注目する處となり矣當局者は早く既に諸設の改良に従事し大に其面目を革新したりと雖も獨り監獄衛生に至りては改良の方針區々にして

斯の如くなるを以て慣習犯者の如き國家生存上に比較的多大の危害を與ふるものは刑罰權の發動する所に從て之れが絶滅に適應するの最強手段を執るも固より其範圍なりと云はざるべからず

累犯者即ち慣習犯者は果して現に行はるゝ刑罰法に據りて懲治改悛の効を奏すること能はざるや否や若し夫れ累犯者が學理上絕對的不治の犯罪人たるや否やを決する能はざるを以て隨て之れに對する適應手段と判然せずとするも關係的不治の犯罪人即ち在來の刑罰を以て改心の効を奏すること能はざること疑なきを決するを得ば隨て徒らに姑息の手段に依らずして再び犯罪を犯す能はざるの最強抑壓手段を執らざるべからざる程の關係的不治の初と見るべきや否や未だに於て容易に決するを得ず慣習犯者が比較的初心の犯罪人より關係的不治の犯罪人と見るを得べきは疑なきべし然れども道は比較的の語にて未だ獨立的觀察下に於て之を認むべからず而して又此論點よりしては全く救治の望なしと云ふべからず

慣習犯者は今日の刑罰法に於ける刑罰の執行にては或は改心の効を奏する能はざらん又單に刑罰の執行のみにては或は救治の道に欠くる所あらん他に完全なる保護の方法の備はるありて以て之れが救治を責けなば雖しも救治の望なしと云ふべからず固より盡く救治し得るの望ありとは言はず唯其大部分に向て概括して之れを言ふのみ單に刑罰執行の結果のみにては如何に其刑罰が適度の地にありしと雖も慣習犯者のみならず初犯者と雖も之れが救治の効果を收むるを得ざるもの多々あるべきならん慣習犯者其慣習犯者となるに至りたる原因を追究するときは多くは外界の事情即ち社會的原因に由るものにして或は教育の欠缺より或は生

著しき結果を見る能はざるが如し此れ畢竟左の數點の障礙あるによらずんばあらず

一 監督者たる典獄の衛生志操に乏しきこと

二 假りに典獄にして衛生志操に富みたりと雖も專門技術者たる部下監獄警に向て其専門裡内に立入り之を指揮するの機能なし

三 各地監獄警給の低廉なる勢ひ眞監獄警を得るに由なし偶々眞監獄警ありと雖も監督者の如何により實際の活用をなさざる

四 監獄衛生に一定の方針なし假りに一定の方針を立てて執行せんとするも從來の習慣と經費とに制せられ勢ひ疾病の一點に偏すること

此等の數項は監獄衛生の振はざる重なる原因にして之を矯正せんとするに

一 監獄衛生に熱心にして老練なる人物を擧げて監獄衛生主事として内務省監獄局に勤務せしめ各監獄一般衛生の衝に當らしめ時々巡視に諭示

に各監獄警を督勵指導し均一に衛生の實効を擧げしむること

二 監獄警の俸給は國庫支辨に改め最下級二十五圓とし須らく之を選擇

すること

余は不取敢左の二項を以て監獄衛生を普及せしむる第一着手と認めたり今や政黨内閣の好機に遭遇し第二の維新として若く改良に従事せらるゝの今日板垣新内相は特に監獄衛生に注意せよとの訓示あり此訓示に基き監獄衛生の完備を期せんには彼の學校衛生に於けるが如く監獄衛生主事を定め尙ほ監獄衛生顧問若干を置き大に監獄衛生の刷新をなさざるべからず彼れは未來國家の干城是れは目前國家の害物同一視すべからずとの議論もあらん然れども余は反對の議論を有する一人にして彼れは動作自在を有する兒童なり少年なり是は拘禁束縛の下に住む四人なり衛生の重

すに足れり而して今回の改正と稱するは其程度如何を知ることは能はず
 雖も有くも現行法の如き姑息的手段にあらすして充分に進路を開放
 し青年有爲の輩をして職務上堅固なる志氣を保持しめ後進の士をして一
 に進取的の氣象を喚起せしむるを以て主眼とせらるるや疑を容れざるな
 り一言以て警路者の参考とす

●改正看守制服に對し企望一束
 在弘前 多 望 生

一冬袴に巾三分乃至五分の制草を附する事
 一甲種外袴の角釦を巡査同様鐵釦に改められたし
 一看守部長用の刀帶を徒來の通下り皮を長くし普通看守と區別を附する

右者編々本年四月より實施の期到來せしめ地方經濟と貨與品保存期限の
 都合に依り當夏期より給與せらるるに方り現物を買見するに舊服制に比
 して頗る其好なるは言を待さるるも茲に望對に似たりと雖も以上掲記す
 る所の企望物々として止るなり其他忌憚なく言はしむれば多々あるも
 先づ已分限を省けぬの當りの企望を吾々機關紙上に借り一言陳述する
 にあり幸に叱咤することなく余と同感の先輩諸士希くは宣布之を遂望の
 條を請せられんことを欲する而已

●我國監獄書籍館設置の必要を論ず
 監門散士 小林芳太郎

抑も天然自然の道理過去百餘の事情を現世に寫出したるものは書籍な
 り而して其部其の名枚舉に遑ならず凡そ人たるの道は現義別序信の倫理
 を明晰にして善を行ふより大なるはなし是れ即ち人の本分にして道を知

手續を極而して警察署の身元照會に依て直らに之れが採用を決す故に割
 合に立派なる人物影なく爲めに從て因徒に輕侮の念を含れ或は世上に
 も下で冷視せらるる加之採用其實を失したる云々の説に付て予輩はま生に
 對して一言せん焉
 夫れ君の或や誠に可なり然れ共君は其一を知て其二を知らざるの何ぞ甚
 數只車上の議論に而已拘泥するは所謂井蛙の見と云ふ可きなり如何と
 れば看守採用には規則あり是れに及第し身元照會に差支なくは其前職は
 新聞の賣子もロール廻しも或は郵便の配達夫と雖も何ぞ夫れ不可な
 るべけんや警察署の身元照會の如き予輩門外漢其實地を目撃せざる故に
 如何なる方法を以て身元取調を爲すや之れを知らず然れ共苟も正々堂々
 たる警察の職務として取調たる照會には斷乎として不可なる可し矣或
 は亦君は某工場にて因徒が某看守は前は何々なりと云ひて因徒が語氣何
 となく輕侮の念を含みて私語するを目撃したり或は現今世上に看守の名
 聲漸時に墜落して卑下視せらるる以所のものは種々なる原因の存すと雖
 重きは人物其實を失し採用に其策を缺きたるに起因するものとほま生よ何故
 に人物其實を失し採用に其策を缺きたるに起因するものとほま生よ何故
 人を恠むなり

前職の如何に依て看守の品格具はらず世人にも卑下冷視せられ其地位揚
 らずとは豈覺見も亦甚しからずや活眼を開きて典獄看守長に就て傾頭熱
 思一考せよ一體典獄看守長に奉職するもの益し損人がある事々たるも實
 に長足者ならざる有様なり譬へば押丁看守より看守長に看守長より典獄
 に奉職するもの多々あるに非らずや百十中の八九に皆然り然るに因徒が
 其人を目して彼何某に押丁或は看守より看守長に或は典獄に昇進したる
 もの之言ひて其人を輕侮する念を含むや決して然らず看守長典獄は看守

ら入ん欲せば學ぶに如かざるなり人物より聖人に非らざれば學ばずして
 其の行爲を著はす事を得べからず而して之を學ぶの具は書籍に在り然り
 而して之を求め學ばんん欲するも下等司獄官の如き薄給者なる故に家に
 錢財なく亦利己者は僅かの費用を恐れて學を疎んず條約改正も近きにあ
 り治獄改良の今日に至りて監獄書籍館の必要なる云ふを俟たざるなり若
 し能く書籍館を設け治獄に従事する司獄官自己の希望を満足し自ら激動興起
 の情を生じ頑夫は不識々々事情を明晰にし牛片の頑心を聞き教段の習を
 進むるに至らしむるは此輩を我國監獄改良の大利益に非らずや西人の曰く
 文化の程度は書籍館の多寡に依て下知すべしと信に然り書籍館の設け多
 き故に程度人異口同音に米國は文化の第一なり英佛之れに次ぎ
 其の他に亦之れに次ぐを以て推せば進歩の程度を知るに足れり今や
 我國人智漸く進み漸く文化の緒に就き國內所々に書籍館の設けあり然る
 に我國監獄に未だ書籍館の設け無きは實に遺憾の至りなり然り而して東
 京にも嘗て監獄官練習所の設立ありしも二三回練習の後に遂に廢止する
 に至れり其の後亦嘗て其の影だに見る能はざるは實に痛歎に堪へざるなり
 嗚呼賢むべきは書籍館重んずべきは書籍館なり治獄改良に此の必要を
 知らざるや

●ほま生に一言す
 山梨 志久 明山

余は監獄協會雜誌第百二十一號寄書欄に於てほま生氏の所感(一)「看守
 職權を明かにす」と題する説に付ては吾人も異論なく双手を掲げ贊同す
 る所なれ共只今日の司獄吏の内目下の看守なるものは新聞の賣子も郵便
 の配達夫も或は新聞社のロール廻しも規定の採用試験に應じ減は定規の
 長典獄たる地位も品格嚴然として具はれり然らば即ち何ぞ看守而已に限り
 前職を言ひて其地位なく品格なきと言ふ理ある可んや焉
 吾人は言はん現今の看守の地位全く墜落したるは之れ社會潮流の止むを
 得ざる所にして即ち社會が看守の職務の何者たるを知るの士に乏しきに
 起因せり故に看守の地位如斯に至りたるものは人物其實を失したるにあ
 らず採用に疵を缺きたるに非らざるは嫌として闇夜に燈火を望むが如し
 前職の如何に依て品格を墮し戒護の實踐に影響を及ぼすものにあらざ
 る職は何程立派なる履歴を有する人にもせよ其性に品格を高尚ならしむる
 氣力なく高尚なる觀念を惹起するの氣力なく活潑なる氣象なくんば何程
 前職は立派なりと雖も此氣力一も缺きたる人に於ては到底嚴然たる看守
 の職務を執行する能はず是れ等を稱して眞に齷齪に屬するものと稱す可
 きなり翻て前職の甚だ卑下視せられし人と雖も好く司獄の性質を知り
 職務に當るや熱心に親切に嚴格に寬嚴其宜しきを得感漢極まる因徒の撰
 選となり好く戒護の實行を奏し過因上其當を得過改進善に導き其社會
 に歸復せしむる性を有するものにあらば何れ前職の卑なるに嘆きせんや
 可言すれば看守は規則に依て採用せしものなれは決して前職の卑を問ふ
 可はずに非らず其試験も亦表面の學術而已に止まらず人材の如何を試
 驗するに當局者の手腕にあるものなれば絕對郵便の配達夫新聞の賣子
 など冷視卑下す可き理由の存するものにあらざるなりほま生氏靜塵沈
 思胸を開き耳を穿て能く認識せよ一時卑職の如何を以て根本的其人物
 を冷視卑下すべきものにあらざるを矣

●前號正誤 四十七頁上段廿三行當て「區」替て「全下段三行就
 之」就久「全三十一行讀して「區」讀んで」四十八頁上段十行及
 之「區」及ばさる」全三十二行讀たり「區」讀べたり」の誤

一教育公報

帝國教育社

一監獄雜誌

警察監獄學會

一統計學雜誌

統計學會

一六合雜誌

日本ゆにてりあん弘道會

一東京版化院雜誌

同院院司發行

一青森縣監獄報

同監獄署

一北海道廳監獄報

同監獄署

廣告

當署新監へ移轉繁忙ノ爲メ乍畧儀誌上ヲ
借リ暑中御見舞申候

香川縣監獄署員

笠原 謙

獄事家各位

雜錄追加

○典獄會議の確定

(九月十五日)

典獄會議は愈々九月十五日より開會の事と決定せられ既に其の筋より訓令せられたりと謂ふ、諮問案も此の兩三日中に發せられ豫め調査を要するもの少なからざるを以て原府縣に向け發送の筈なりと聞きぬ會議中は制服を着用し尤も略装にて可なれども通常服着用は許されざる趣なりと、典獄諸士幸にその準備にて上京あらんか今よりして本會の翹望する所なり

(本月十三日稿)

to work for three days.

Art. XIX. Then the convicted criminal prisoners without labour shall be allowed to labour in the prison, and they shall be appointed by the director; it is so with accused.

Art. XX. These in *Chōjijō* shall be taught in agriculture or hand works not exceeding five hours every day.

Art. XXI. The working house of males shall be strictly from those of females; the working house of convicted criminal prisoners with labour, of convicted criminal prisoners without labour, and those in the *Chōjijō*, shall be separately established; and the adult and juvenile shall be separated also.

Art. XXII. When convicted criminal prisoners with labour shall be elapsed 100 days with; to those sentenced to the *Zuzai* or crime, the two-tenth, and to those sentenced to the *Keizai*, or delit, the four-tenth of their wages shall be given, and the remaining parts are appropriated to the expenses of the prison.

When convicted criminal prisoners without labour or accused do its

第十九條 無定役囚ニシテ監獄園内ニ於テ自ラ作業ヲ爲サント請フトキハ之ヲ許シ作業ノ種類ハ典獄之ヲ指定ス刑事被告人モ亦之ニ準スルコトヲ得

第二十條 懲治人ニハ毎日五時間以内農業若クハ工藝ヲ教ヘ力作セシムヘシ

第二十一條 役場ハ男女ノ別ヲ嚴隔シ仍キ定役囚無定役囚懲治人ノ役場ハ各別ニ之ヲ設ケ其中ニ就キ丁年以上ノ者ト未丁年者トヲ區別スヘシ

第二十二條 定役ニ服スヘキ囚人現役一百日ヲ經レハ始メテ各自ノ工錢ヲ料定シ之ヲ十分シテ重罪囚ニハ其二分輕罪囚ニハ其四分ヲ與ヘ餘分ハ監獄ノ費用ニ供ス

無定役囚懲治人及刑事被告人ニシテ作業スル者ノ工錢ハ之ヲ十

labour, the six-tenth of their wages shall be given to them, and the remaining parts are appropriated to the expenses of the prison; when convicted criminal prisoners with work are alike in the proportion with it.

Art. XXIII. The wages to be paid according to the preceding Article shall be kept in custody at the hand of the director.

Art. XXIV. When convicted criminal prisoners, accused, or those in *Chōjijō* run away and there are left goods, these are kept in custody at the office of the prison; and if there is no claimant for them within a year, they shall be appropriated to the charitable purpose in the prison; it is so with goods kept in custody of the deceased or the executed in capital punishment.

Art. XXV. When convicted criminal prisoners or those in *Chōjijō* demand to deliver of their goods kept in custody for the support of their parents, wives, or children or for other reasonable outlays, the director shall examine the conditions and permit it.

For accused, the permission of the

分シテ其六ヲ與ヘ其餘分ハ監獄ノ費用ニ供ス定役ニ服スル囚人ニシテ科程外ノ作業ヲ爲ス時ノ工錢モ亦之ニ準ス

第二十三條 前條ニ依リ作業者ニ與フヘキ工錢ハ典獄之ヲ領置スヘシ

第二十四條 囚人懲治人及刑事被告人逃走シ監署ニ領置ノ貨物アルトキハ逃走ノ日ヨリ滿一箇年ヲ經テ之ヲ受クヘキ者ナキトキハ監獄慈惠ノ用ニ充ツ刑死者死亡者ノ領置貨物ニシテ受クヘキ者ナキトキモ亦同シ

第二十五條 囚人懲治人監署ニ領置ノ貨物ヲ以テ其父母妻子ノ扶助及正當ノ費用ニ充ント請フトキハ典獄其事情ヲ取糺シテ之ヲ許可スヘシ

刑事被告人ニ係ルトキハ當該裁

●出版廣告

前内務省警保局長小野田元瀨君題詞
監獄事務官小河滋次郎君序文并檢閱

警視廳監獄書記橫江勝榮君
大日本監獄協會佐野 尙君

合著

司獄官吏必携

製本實費

金六拾五錢

附看守教習書

本書ハ勅令、法律、命令、訓令、警視廳監獄ノ規程内訓等總テ司獄官ニ必用ナルモノハ一モ洩スコトナク網羅蒐輯シ本文ヲ廿四款ニ大別シ章項ヲ設ケ索引ニ便ナラシメタル一目睹然ノ良書ナリ殊ニ司獄界ノ泰斗小河滋次郎君ノ檢閲ヲ經タルナレバ尋常一様ノ法規集ニアラザルヤ必セリ而シテ本書ハ携帶ニ便ニシテ價亦タ廉ナリ。本書ハ曩ニ豫約出版セシ處少シク殘本アルヲ以テ御要望ノ各位ニ御配布申スベシ代金ノ義ハ御都合ニヨリテハ月賦ニテモ宜敷御坐候詳細ハ卅年九月刊行大日本監獄協會雜誌第百拾貳號ニ就テ見ラルベシ不明ノ点ハ御照會ヲ乞フ。

發行所

東京市淺草區
墨船町廿八番地

東京並木活版所

敬白

廣告

濃飛育兒院擴張の趣意

吾濃飛育兒院は設立以來六十餘名の孤兒を養ひ來れり方今在院者四十名に達せしめて五十五名有餘なり其の一家族を成し絶て家族主義の教育法を取れり其他東京、神戶、京都、明石等に在り學校、商家、勝家に在りて修業し他日院務を助けんとす兒童もあり向に院兒中十名は岐阜名産たる團扇製造に従事し五名は他日印刷事業を起さんか爲し準備し居れり元來本院を維持するに少く共毎月百五十圓を要す故に本年初月より月約喜給金を募集し其額已に三十有餘圓に達せし又團扇製造の業も元來一定の資本を有せざるを以て屢々事業を中止せざるべからざる不幸に遭遇せしか本年二月大方の仁助を以て資本金圓を得たり若し此資金三百圓を有せば團扇製造の事業を行ふに支障なからんとす吾院中廿五名は尙幻翽自働に堪へず日々小學校に通學せり吾人は又彼等を養ふの途を立てざるべからず今や時運の促進に依り大に期圖する所あり

新に支部を東京に設け吾院製造の團扇の販路を擴め並に岐阜名産の委託販賣を謀り多少の院兒養育費を得んと欲す且つ救済新報をも東京に徙し新に豊崎善之助氏を聘して主筆となし松村介石留岡幸助二氏に之が輔佐を請ひ全くなり而して吾人の將來に希望する所所あらんとす然かり而して一人の將來に希望する所

(一) 一定の資本財産を募集し其利子を以て維持せんこと

明治廿一年五月創刊

(二) 團扇部、活版部、各十名の院兒を養育するの途を立てんとす

(三) 救済新報を獨立せしめ社會を養護し社會事業の進歩を經緯するに至らんと是なり

吾人不肖倒より其人にあらざるに雖も一片仁侠の志に聖られ自ら掃らす斯事業を計畫せり今や誠に任重く道遠きを感ず播首碎骨之に勉れんは固より期する所なり大方の仁人君子幸に微衷を憐察せよ

明治卅一年六月

濃飛育兒院主

五 十 嵐 喜 廣

岐阜市珠城町卅五番地

濃飛育兒院本部

池田區表神保町一丁目十四番地

同赤坂田町一丁目十四番地

池田區表神保町一丁目十四番地

同赤坂田町一丁目十四番地

發行所 東京並木活版所

發行所 東京並木活版所